



2013 年度

(平成 25 年度)

年 報

公益財団法人 近江兄弟社

ヴォーリス記念病院
訪問看護ステーション ヴォーリス
ホームヘルプステーション ヴォーリス
ヴォーリス居宅介護支援事業所

基 本 理 念

- I キリスト教の「隣人愛」と「奉仕」の業を実践する。
(病む人、障害を持つ人の満足する医療を実践する。)
- II 「医療は、サービス業である。」
(“患者サービス第一”を原則とし、親切で親身な医療サービスを実践する。)
- III 「心と体に対し、調和の取れた医療・看護を目指す。」
(病む人を診る。病む人に優しい医療を実践する。)

基 本 方 針

- 1. ヴォーリス記念病院「患者憲章」及び「個人情報保護規程」を遵守し、患者さんの権利、意思を尊重し、常に診療を拒まず、迅速に診断・治療を行う病院となる。
- 2. 一般急性期、高齢慢性期から終末期まで幅広く対応できる体制を整え、患者さんが「生を全うする」ことを支える医療・ケアを実践する病院となる。
- 3. 地域住民の疾病予防・健康的生活のため、地域ニーズを反映した保健・医療・介護活動の拠点として開かれた病院となる。
- 4. 地域の保健医療機関及び介護施設との連携を深め、在宅医療、在宅介護を推進し、患者さんの立場に立った医療・介護を提供する病院となる。
- 5. ホスピス病棟と在宅介護サービス部門との協働により、在宅の看取りを可能にする病院となる。
- 6. 職員を大切にし、お互いが希望と意欲を持って、働き甲斐のある病院となる。

私 たち の ち かい

- 1. 私たちは、患者さんのために最善をつくします。
- 2. 私たちは、患者さんの誰にも同じようにつかえます。
- 3. 私たちは、患者さんの権利と意思を尊重します。
- 4. 私たちは、患者さんのプライバシーをまもります。
- 5. 私たちは、知識・技術の向上につとめます。

ご 挨 拶

公益財団法人 近江兄弟社 理事長

ヴォーリズ記念病院 院長 周防正史

みなさまにおかれましては、益々ご発展のこととお慶び申し上げます。平素は当病院に格別のご支援、ご愛顧を賜り、心より厚く御礼申し上げます。

団塊の世代が高齢者となる 2025 年まであと 10 年ほどとなりました。未曾有の高齢者社会が到来します。当院は 2000 年に結核病棟を閉鎖したのち、地域の高齢者に貢献できる医療機関として準備を進めてまいりました。訪問看護ステーション、居宅介護支援事業所、ヘルパーステーションの整備、病院の回復期リハビリ機能、慢性期機能、終末期機能の充実。在宅支援を目的とした地域連携課の整備。「三方よし研究会」をはじめとした、地域連携パスの参加。来年は在宅療養支援病院と、地域包括ケア病床を取得し、後方支援病院としての機能強化と在宅診療のさらなる拡充を目指しております。

今後も、創立者 W.M.ヴォーリズの残した「キリスト教の隣人愛と奉仕の精神」を基本理念とした創立の精神を継承し、地域になくてはならない医療機関として精励致す所存です。

2013 年度の活動をまとめましたので報告させていただきます。ご高覧いただければ、まことに幸いです。

末筆ですが皆様のご健勝ご発展をお祈り申し上げます。

目 次

- ・ 病院基本理念
- ・ 基本方針
- ・ 私たちのちかい

病院長の挨拶

1. 概要

ページ

病院組織図

1

病院事業報告

2-5

2. 2013 年度（平成 25 年）主な行事・出来事

6-8

3. 各部報告

診 療 部

診療部 総括

9-13

医 局

14-16

医 局 秘 書

17

診療技術部

診療技術部 総括

18-19

薬 局

20-21

診療放射線科

22

臨床検査科

23-26

栄 養 科

27-28

集団栄養指導

29

リハビリテーション科

30-32

メディカル フィットネスセンター ウォーリス

33-34

ME サービス室

35-38

看 護 部	看護部 総括	39-40
	1 病 棟	41-42
	2 病 棟	43-45
	3 病 棟	46-47
	緩和ケア病棟	48-49
	外 来 部 門	50
事 務 部	事務部 総括	51-52
	医 事 課	53-54
	総 務 課	55-56
	庶 務 課	57-59
	診療情報管理室	60
	地域連携課	61-63
	健 診 室	64
	企画渉外課	65-66
在 宅 部	在宅部 総括	67
	訪問看護ステーション ウォーリス	68-69
	ホームヘルプステーション ウォーリス	70-71
	ウォーリス 居宅介護支援事業所	72
	介護予防拠点事業活動報告	73-74
礼 拝 堂	礼拝堂 総括	75

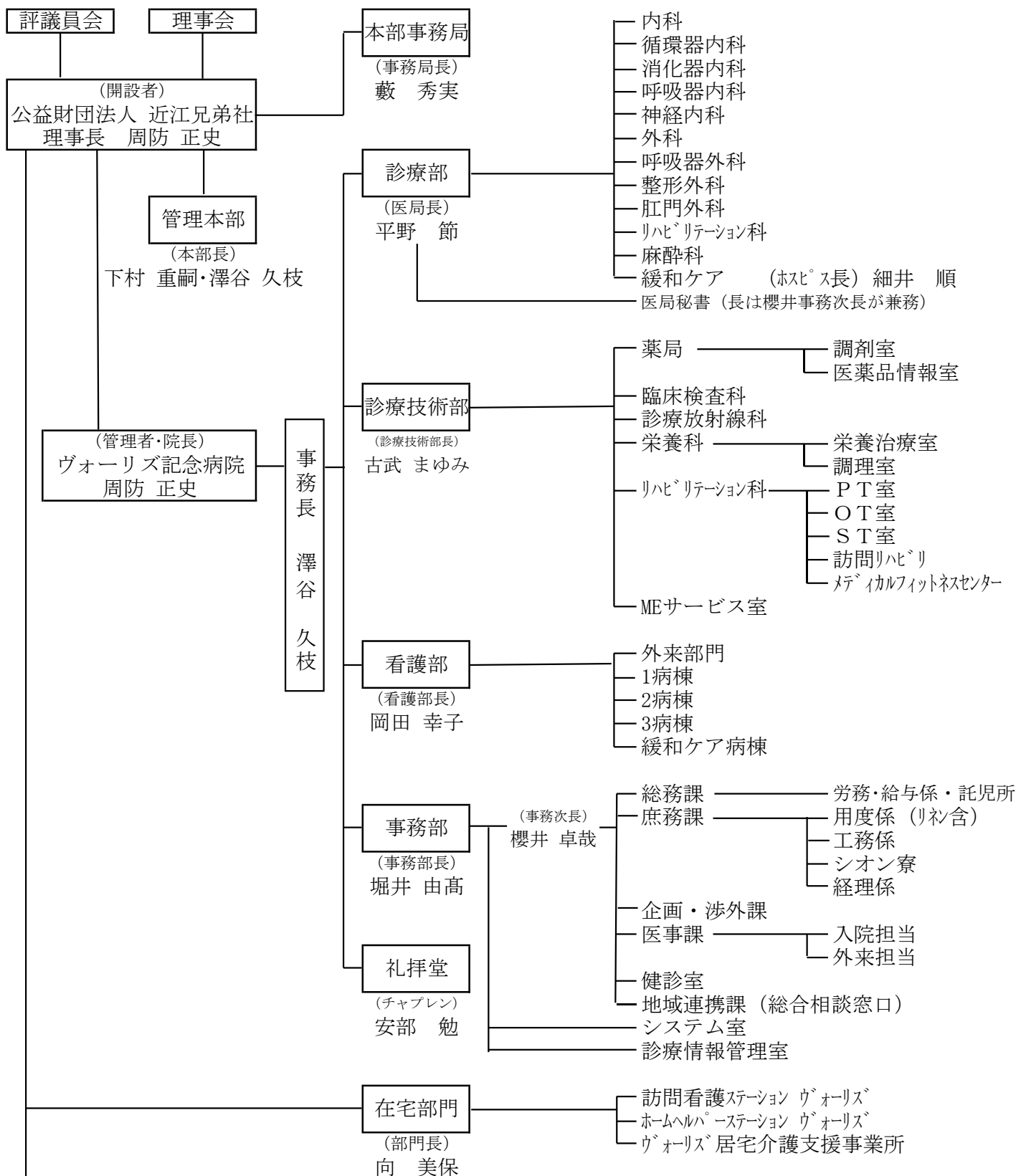
4. 委員会報告

業務連絡・業務改善委員会	76
給与・規約プロジェクト委員会	77-78
自衛消防隊	79
安全衛生委員会	80
栄養管理委員会	81
広報委員会	82
接遇委員会	83
臨床検査適正化委員会	84
医療安全管理委員会	85
医療安全管理 リスクマネジメント委員会	86
教育委員会	87
全人的ケア推進委員会	88-89
褥瘡対策委員会	90
ボランティア委員会	91
院内感染防止対策委員会	92
診療情報管理委員会	93
病院機能評価委員会	94
個人情報保護対策委員会	95
クリニカルパス委員会	96
ワークライフバランス委員会	97

概要

公益財団法人 近江兄弟社 ヴォーリス記念病院（及び関連事業体）

2013（平成25）年度 組織図（1月4日）



公益財団法人近江兄弟社 ヴォーリズ記念病院
平成 25 年度事業報告

25 年度は、地域医療再生計画最終の年度となり、当院の中長期計画及び地域医療再生計画補助事業に申請をしていたリハビリセンター建設実現に向け、6 月の着工から翌 3 月 31 日竣工までの 9 ヶ月の工期で完成することが出来た。融資金融機関・施工管理・施工業者・財団に関わる諸先輩方のご尽力に感謝したい。4 月 1 日から、リハビリセンター・保育所・在宅サービス部門と順調良くスタートが切れている。

再生計画のもうひとつの事業として進めてきた電子カルテ等による医療機関どうしの連携システムについても、4 病院（近江八幡市立総合医療センター・東近江医療センター・神崎中央病院・ヴォーリズ記念病院）の準備が整い、びわこネットワークとの継続稼働を待つばかりである。

院内では、電子カルテ導入から 2 年目を迎え、医師事務補助者の増員により、外来診療業務が効率よく機能している。また、患者情報を共有することで、業務の標準化に寄与している。このことにより、患者サービスと医療安全確保に繋がっている。

地域連携関連では、地域連携課やベッドコントローラーとの戦略に加え、近江八幡市立総合医療センターから整形外科医師の週 1 回の往診体制の他、木曜日の外来整形外科枠増により、患者のアクセスがスムーズになるなどの効果がでている。

就業環境面にも配慮し、ワークライフバランスプロジェクト委員会を立ち上げ、個々の働き方に合わせたフレックス勤務・時短勤務などの検討を重ねてきた。また、メンタルヘルスサポート体制を作り、ストレス度チェック・相談窓口の開設等を行っている。

経営状況として、

前年対比では、医業収入は、27,831 千円増 (1.5%)、医業費用は、122,181 千円増 (6.5%) となり、医業収支差は、124,101 千円の減、医業外収支差は、19,928 千円増となり、増収減益、経常収支差額は、104,173 千円減となり、単年度 33,671 千円の赤字決算となった。

分析として、下記に述べる。

- ① 入院は、年間延べ患者数 54,213 人（前年対比 310 人増）、一日平均患者数は亜急性期病床を含んだ一般病棟 50 床で 41.6 人（稼働率 83.3%）、療養病棟 60 床で 57.8 人 (96.4%)、回復期リハ 42 床で 39.4 人 (93.9%)、緩和ケア病棟 16 床で 12 人 (75.6%)、患者一人一日平均収入は、1 病棟 29,471 円 (予算 28,500 円)、回復期リハ 34,476 円 (予算 30,450 円)、療養病棟 16,564 円 (予算 16,500 円)、緩和ケア病棟 48,977 円 (予算 45,000 円) と単価はほぼ予算をクリアしているが、稼働率は後半、ホスピスが 55.6% となる月もあり、予算に対し 74,894 千円減 (△4.9%)、前年度対比 1,352 千円減 (△0.6%) であった。

近江八幡総合医療センターを中心とする患者紹介をスムーズに受け入れるために、

空床報告をタイムリーに行い、紹介を断らないスタンスを実行した。このことは、回復期リハ病棟の稼働率に評価できる。傍ら、ホスピスへの紹介が伸び止み、在院日数が短くなっていることから、ホスピス医が医療センターに週1回出向き、訪問診療する体制を整え新年度から実施する予定である。

- ② 外来は、年間累計患者数 32,557 人（前年対比 1,474 人増）、一日平均患者数 110.7 人（前年対比 5 人増）、外来収入は 314,741 千円（前年対比 27,347 千円の増）となった。救急車搬送受入数は前年対比横這いである。

増収の要因として、病診連携では、開業医紹介数が前年度対比 9.3%増となり昨年度の減少から少し回復できた。適切な検査の予約・問診票・同意書などをメディカルクラークが看護師と業務分担しながら行うことで電子カルテにおける医師の業務負担軽減が図れたことも評価できる。一方、常勤医師と専門外来の非常勤医師の集客性のアンバランスは依然として続いており、昨年に引き続き課題である。

- ③ 健診では、53,319 千円（前年対比 834 千円減収）の実績となった。但し、職員健診の利便性を鑑み、院内で受診している職員売り上げ分は、福利厚生費として戻している。

- ④ リハビリテーション科の実績は、270,327 千円であった。（目標 290,050 千万）。

前年対比 14,390 千円の増収となったが、予算は達成できていない。予算達成できなかった原因として、新年度計画の要因でスタートしているが、結婚・出産等の年度途中の退職、事故・病欠による単位数の減少が響いている。

次年度は、スタッフ 7 名の増員が見込めるので単位数は安定する見込みである。

4 月開設のリハビリセンター機能を十分に活用し、サービスの充実と安定した実績に繋げたい。

- ⑤ ホスピスでは、医師 2 人体制 2 年目となり、ホスピス外来を週 4 回、紹介患者数は近江八幡医療センターを中心に前半、安定した運営が出来ていたが、一年を通して在院日数が前年度より 2.2 日（25.4 日）短いことが稼働率に影響を与えた。後半の新患外来数が減少したことについては、八幡総合医療センターと話し合いを持った結果、26 年 4 月より、週 1 回センターへ訪問し緩和ケア医診療を開始することとなった。

- ⑥ 労務・経費関係では、人件費が予算対比 10,736 千円（0.8%）増、収益に対する人件費率は、71.2%であった。前年に比べて 4.7%増となり、他退職金 11,107 千円増、非常勤医師 13,000 千円増、賞与 20,000 千円増と収益に伴う生産性の課題が残る。業者からの医師看護師紹介に伴う紹介料 6,000 千円もウエイトが大きい。

また、経費面では、夏・冬の節電対策に臨むも、前年度対比 4,000 千円増となった。消耗品等は、4 月からの消費税アップを鑑み、3 ヶ月分多めの購入を行ったこと、新棟に関わる備品購入等で、11,000 千円増と膨らんでいる。

- ⑦ 人財の充足においては、医師の高齢化に併せて、体調不良と時短勤務希望・内分泌

科医師の欠員により、常勤医師への負担度が増している。当直医師の非常勤を雇用するなど、負担軽減を図っている。看護師・介護士においては、年度後半にリクルート活動を他府県にも向け開始し、WEBによる求人も併せて活用している。全体の組織として、26年度より、院長補佐として就任される三ッ浪先生への期待は大きい。

全体的に、予算達成に対する単月毎の収入追求と、支出面では、人件費に係わる業務効率と労働分配率のバランス、新入社員の離職率増が課題として残る。

来年度は、新棟建設に300百万円借入の返済が、4月より1,670千円、10月より更に877千円を開始し、前年比+25百万円の返済原資が必要となる。

また、必然的に、消費税増税に伴い、運営コストは上昇する。

26年度診療報酬改定にある地域包括ケアシステムの方向性をしっかりと見据え、研究しながら、収入増対策を積極的に進める。

【法令遵守違反の件について】

平成26年2月に、新聞社に匿名の告発があり、内容は平成22年4月「回復期リハビリテーション病棟入院料1」届出申請時に、「月平均夜勤時間数」要件に不適切な報告があったとの旨であった。

内部調査委員会を立ち上げ、過去4年間分(平成22年4月～26年3月)を精査した。結果は、3月に理事会・評議委員会でご報告したとおりである。

今後、5月14日に近畿厚生局の適時調査を受けることになっている。

事前提出書類とともに、当日の調査結果に基づいて審判が下される予定である。

諸々の要因を酌量しても、過去、実態に反した届出・報告をしたことは紛れもない事実であり、その社会的責任は大きく、許容されるものではないと重く受け止めている。現在は、法令遵守に基づき運営を継続しているが、併せて内部統制を強固なものにすることと、外部監査態勢の充実を進めている。

以上

ヴォーリス記念病院 貸借対照表

平成26年3月31日現在

(単位：円)

資産の部		負債の部	
科目	金額	科目	金額
〔流動資産〕	556,031,687	〔流動負債〕	584,287,892
現金・預金	235,775,154	買掛金	119,637,769
医業未収金	285,598,342	未払金	46,653,229
未収金	7,942,236	他会計短期借入金	328,695,775
棚卸資産	12,690,295	預り金	9,999,119
前払費用	496,530	仮受金	0
未収収益	0	賞与引当金	54,000,000
役員従業員短期貸付金	14,300,000	一年以内返済長期借入金	25,302,000
法人会計	0		
他会計短期貸付金	0		
立替金	931,399		
仮払金	285,431		
貸倒引当金	△ 1,987,700		
〔固定資産〕	1,546,185,893	〔固定負債〕	712,646,832
＜有形固定資産＞	1,543,499,933	長期借入金	614,186,000
建物	846,530,186	長期未払金	98,460,832
構築物	31,360,137	退職給付引当金	0
医療用器械備品	189,529		
その他の機械備品	13,510,674	負債の部合計	1,296,934,724
車輜及び船舶	51,767		
土地	33,522,364	資本の部	
リース資産	138,059,251	国庫補助金等	162,192,000
建設仮勘定	480,276,025		
＜無形固定資産＞	2,685,960	剰余金	
電話加入権	431,732		
ソフトウェア	2,254,228	当期末処分剰余金 (うち当期剰余金)	677,971,626 (△37,558,854)
〔その他の資産〕	34,880,770		
出資金	585,000	資本の部合計	840,163,626
敷金	1,164,000		
長期前払費用	24,310		
保険積立金	33,107,460		
資産の部合計	2,137,098,350	負債・資本合計	2,137,098,350

2013 年度 主な行事・出来事

2013 年度（平成 25 年度）主な行事 出来事

4 月

- 1 日 入社式 新入職員 17 名、 前年途中入社 26 名
1 日～5 日 新入職員オリエンテーション
- 2 日 自己啓発セミナー （新入職者対象、ウォーターハウス）
- 13 日 2012 年度第 3 回ヴォーリス がんセミナー
「在宅看護について」
当院在宅看護専門看護師 田村 恵 氏
- 23 日 新入職者歓迎会（YES グリーンホテル）

5 月

- 7 日 W. M. ヴォーリス 召天祈念礼拝（恒春園）
- 11 日 第 84 回近江兄弟社 恒春園記念式（近江兄弟社学園 平和礼拝堂）
- 15 日 「看護の日」イベント
- 17 日 “生と死を考える会 淡会” 第 12 回総会
「旅立ちのおもてなし」
当院緩和ケア認定看護師 谷川 弘子 氏
- 24 日 職員会主催 新入職員歓迎会 （ウォーターハウス）
- 25 日 第 95 回開院記念式・永年勤続・ボランティア表彰
病院 春季追悼会（ケアハウス信愛館）

6 月

- 1 日 ボランティアの集い
- 5 日・6 日・25 日（1・2・3 回目）病院基本理念研修会
- 8 日 ホスピス遺族会 （YES グリーンホテル）
- 11 日 新棟（リハビリ・在宅部門・託児所）起工式
- 14 日 リスクマネジメント研修会
「インシデントは何故起こるか」
- 29 日 春季 里モニター会

7 月

- 4 日 （4 回目）病院基本理念研修会
- 10 日 里のクリーン大作戦（全職員・老健職員による敷地内大清掃）
- 12 日～8 月 27 日 他部署体験
（今年度 4 月と前年度 12 月以降新規採用者の常勤勤務者対象）
- 15 日 職員会主催 夏の厚生旅行 （福井県若狭高浜にて）
- 19 日 “生と死を考える会 淡会” 世話人会 懇親会 （ウォーターハウス）
- 22 日 職員のためのセルフケアーマネジメント研修会

8月

- 1日 新入職 自己啓発セミナー後 振り返り（ウォーターハウス）
- 17日 ホスピス夏祭り

9月

- 6日 喫煙に関する研修会
- 10日 避難、消防訓練実施
- 14日 2病棟夏祭り
- 19日・20日 （公財）日本医療機能評価機構による審査受審
- 23日 滋賀県病院協会ソフトボール大会（今津総合運動公園）
- 24日 院内救命救急講習会（希望者のみ）
- 24日・25日 厚生旅行 宿泊 1班

10月

- 9日・10日 厚生旅行 宿泊 2班
- 10日 第20回初期消火競技会（近江八幡消防署）
- 16日 厚生旅行 日帰り 1班
- 19日 病院 秋季追悼会（ケアハウス信愛館）

11月

- 1日・7日 人事制度の説明会
- 5日・6日 厚生旅行 宿泊 3班
- 10日 “ヴォーリズすこやかフェスタ”
- 12日 厚生旅行 日帰り 2班
ICT 合同カンファレンス（ホスピスミーティングルーム）
- 15日 献血（老健センター1F 研修室）
- 16日 秋季 里モニター会
- 18日～22日・25日～29日 チーム力向上のための意見交換会（10回）
- 21日 地域連携パス“三方よし研究会” 担当（近江兄弟社学園 平和礼拝堂）
- 23日 管理職者研修会

12月

- 3日 公益財団法人監査
- 3日・4日・9日 感染防止対策・医療安全管理に関する研修会
- 11日 保健所による立ち入り検査
- 14日 病院クリスマス祝会
- 15日 病院機能評価認定証受理（公財）日本医療機能評価機構による
- 20日 近江兄弟社グループ クリスマス祝会（近江兄弟社学園 平和礼拝堂）
- 28日 仕事納め 院内巡視

平成26年1月

- 18日 2013年度第1回 ヴォーリズがんセミナー (ケアハウス 信愛館)
「地域医療の様々な仕組み作り～高齢化社会を見据えて」
東近江健康福祉事務所所長 瀬戸 昌子 氏
- 15日・17日 看護部 看護研究発表会
- 23日・28日 (1・2回目) 個人情報保護対策研修会

2月

- 1日 近江兄弟社創立109年記念式典 (平和礼拝堂 近江兄弟社学園)
W. M. ヴォーリズ 召天50周年記念講演
- 6日 (3回目) 個人情報保護対策研修会
- 12日 ICT 合同カンファレンス (滋賀医大)
- 13日・14日・20日・21日 接遇研修
- 21日 職員会主催：職員親睦会 (近江八幡市なごみねこ)
- 22日 2013年度第2回 ヴォーリズがんセミナー (ケアハウス 信愛館)
「健やかに生き、健やかに死ぬ方法」
日本ウエルネス学会理事長 野崎 康明 氏

3月

- 1日 モニター会慰労会 (アンドリュース記念館)
- 9日 “生と死を考える会 淡海” 公開講演会 (ケアハウス 信愛館)
「聴くことでいのちの寄り添う」
「いのちがいちばん輝く日」制作監督 溝渕 雅幸 氏
- 10日 消防・避難訓練実施
- 13日 HIVについての研修会
- 13日・14日・20日・21日 接遇研修
- 15日 2013年度第3回 ヴォーリズがんセミナー (ケアハウス 信愛館)
- 18日 平成26年度計画発表会 (各部署)
- 19日 財団理事会・評議委員会 (アンドリュース記念館)
- 25日 平成26年度 診療報酬説明会
- 29日 新棟『東館』 竣工式

各部報告

診療部

◆消化器内科

【スタッフ】

常勤医師 : 1名
非常勤医師 : 2名

【診療体制】

外来診療日 : 火曜日・木曜日・金曜日・土曜日（第1・3・5週目）
入院 : 約 30 床

【診療内容】

腹腔内臓器全般の診療、特に内視鏡的処置として、胃・大腸腫瘍に対する内視鏡的切除術、消化管出血に対する内視鏡的止血術を行っております。消化性潰瘍のヘリコバクター・ピロリ菌の除菌療法、炎症性腸疾患の治療、各種消化管疾患の治療を幅広く行っております。そして、慢性肝炎のインターフェロン療法、あるいは膵胆道腫瘍に対する減黄術、ステント挿入術などの診療に当たっております。また、吐血・下血などの緊急対応も可能な限り行っています。

◆循環器内科

【スタッフ】

常勤医師 : 1名
非常勤医師 : 2名

【診療体制】

外来診療日 : 月曜日・水曜日・木曜日・金曜日・土曜日
入院 : 約 30 床

【診療内容】

急性期から慢性期の患者さんに対応しております。心臓超音波検査・頸部動脈超音波（年間約 1000 例）やトレッドミル検査（年間約 100 例）他生理検査を行い、各種心疾患の早期診断、治療を行っております。

◆糖尿病内科

【スタッフ】

常勤医師 : 1名
非常勤医師 : 3名

【診療体制】

外来診療日 : 火曜日・水曜日・木曜日（午前・午後）・金曜日・土曜日
入院 : 約 10 床

【診療内容】

糖尿病の治療、教育入院、外来における糖尿病教室行っております。NST とも協力して、栄養評価、指導をよりきめ細かいものに行きます。

◆呼吸器科

【スタッフ】

常勤医師 : 1名
非常勤医師 : 4名

【診療体制】

外来診療日 : 月曜日・火曜日・水曜日・木曜日・金曜日
入院 : 約 10 床

【診療内容】

一般市中肺炎から COPD 等の慢性肺疾患、結核や非定型抗酸菌症の診断や治療（現在結核入院は受け入れておりません）、肺癌の診断、気管支鏡検査、肺癌の治療（主に抗癌剤治療）、気胸手術など幅広く対応しております。アスベスト疾患の 2 次検診についても対応しております。

◆一般消化器外科・肛門科・麻酔科

【スタッフ】

常勤医師 : 2名

【診療体制】

外来診療日 : 月曜日・水曜日・木曜日・金曜日・土曜日

入院 : 約 30 床

【診療内容】

急性期疾患（急性虫垂炎、腸閉塞、腹膜炎など）から胃癌、大腸癌、胆嚢癌、膵癌などの消化器癌に対応しております。鏡視下手術も平成 5 年から対応しており、幅広い実績があります。肛門科は内痔核、裂肛、痔ろう、直腸脱、直腸粘膜脱などを幅広く対応しております。内痔核に対する四段階注射法（ジオン療法）を行っております。また、保険診療外ですが、巻き爪の矯正治療（VHO 式）も行っています。

◆整形外科

【スタッフ】

非常勤医師 : 7名

【診療体制】

外来診療日 : 月曜日・木曜日・土曜日の午前診

入院 : 約 10 床（外科で対応）

【診療内容】

主に慢性期の患者さんに対応。診断（オープンタイプのMRI など）及びリハビリテーションに力をいれております。非常勤医による手術も行っています（外科での入院になります）。

◆リハビリテーション科

【スタッフ】

脳血管リハビリ専任医師 : 1名
運動器リハビリ専任医師 : 1名
呼吸器リハビリ専任医師 : 1名

【診療体制】

入院 : 約 46 床

【診療内容】

脳梗塞・脳出血後遺症、整形疾患、呼吸器疾患、パーキンソン病・多発脳梗塞・認知症の方に、理学療法、作業療法、言語療法を行っております。

亜急性期病床・回復期リハビリ病棟で入院リハビリを行っております。対象は脳血管疾患の急性期を過ぎた患者さん、整形外科や外科の術後などでリハビリが必要な患者さんなどです。地域連携パスにも参加しています。

◆神経内科

【スタッフ】

常勤医師 : 2名

【診療体制】

外来診療日 : 火曜日
入院 : 約 10 床

【診療内容】

脳梗塞、パーキンソン病、その他各種神経疾患の診断、治療そしてリハビリテーションを行っております。

◆緩和ケア部門

【スタッフ】

常勤医師 : 2名

【診療体制】

外来診療日 : 月曜日・火曜日・水曜日・金曜日いずれも午後

入院 : 約 16 床（ホスピス病棟）

【診療内容】

ホスピス病棟（希望館）を開設して7年になりました。癌終末期の患者さんに緩和ケアを行っております。今後、湖東地域における緩和ケアの中心を担うべく、心の通ったケアを行っております。在宅ケアにも力を入れております。

◆認知症外来

【スタッフ】

常勤医師 : 1名（兼任）

【診療体制】

外来診療日 : 水曜日午後

【診療内容】

アルツハイマー型認知症・脳血管性認知症の治療・リハビリ・相談を行っております。

医局

【目標】

1. 地域医療・福祉への積極的な関わりを通して、東近江医療圏に於ける当院の位置づけと役割分担を明確にする。「病・診」、「病・病」連携をさらに進め、紹介患者数を増やす。
2. 緩和ケア（在宅、ホスピス、デイ）への取組みを進める。
3. 回復期リハビリ病棟の安定した運営に寄与すると共に、リハビリ棟建設に向けた取組みを進める。
4. 近江八幡市立総合医療センターの後方支援病院としての機能分担を果たす。
5. インフォームド・コンセントの徹底とチーム医療の確立。
6. 急性期疾患の患者の確保。
 - ① 迅速な診断と的確な治療。
 - ② ベッドコントロールの適正化・迅速化。
7. 外来部門の効率化と専門外来の充実。
8. 健診部門の充実。
9. 電子カルテの更なる活用。
 - ① 効率化。
 - ② 地域ネットワーク。
 - ③ 遠隔画像診断システムの導入。
10. 病院機能評価受審に向けた活動を更に進める。
11. 医療安全、感染予防に向けた活動を推進する。
12. リハビリテーション棟構想の実現に向けた準備をする。
13. 常勤医の確保に努める。

【教育】

個々の医師により研修や専門医試験に向けた研鑽を重ねています。

【今後の課題】

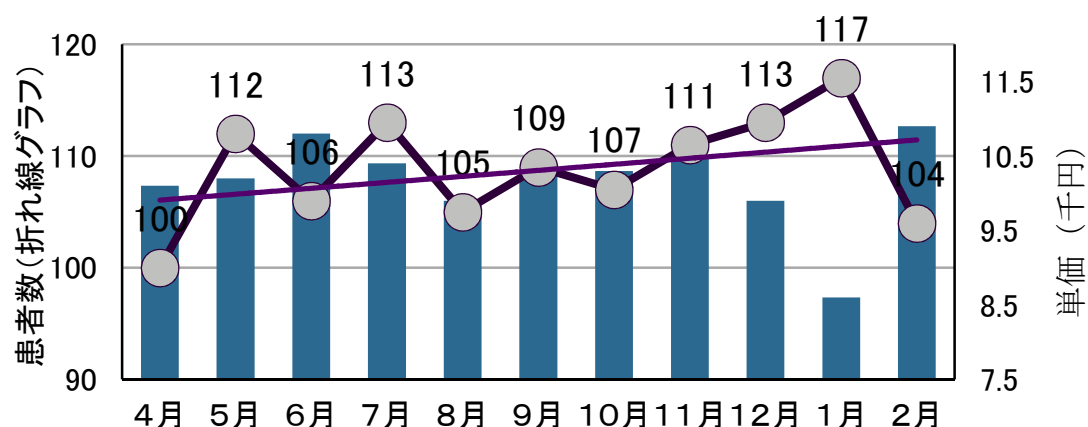
1. 医師クランクを導入したばかりであるが、診療の効率化のために業務整理、改善が必要。
2. 電子カルテを一層活用して地域ネットワークへの参加を目指す。
3. 対外的な発表の機会を一層増やす。

【平成 25 年度振り返り】

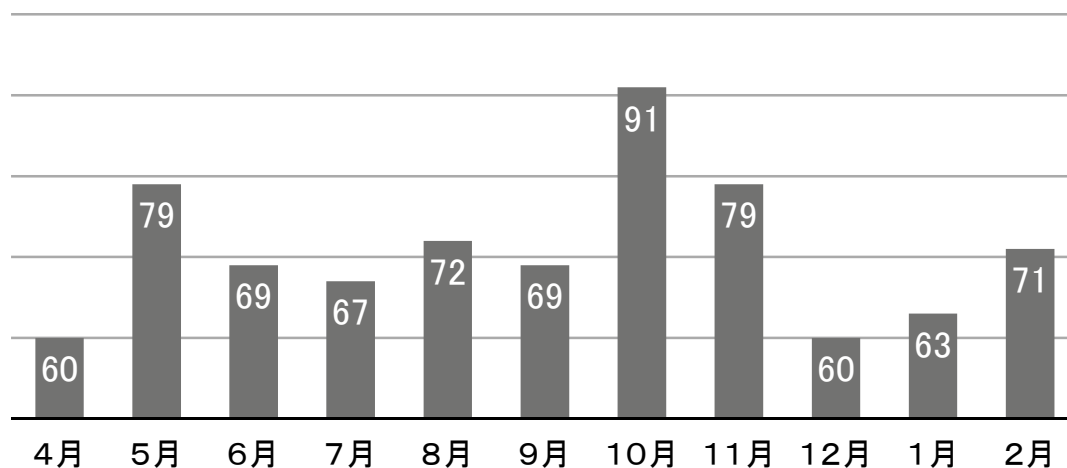
電子カルテを導入してはや1年となりました。運用には大きなトラブルもなくできています。電子カルテの入力についても、医師クランクの増員もあって導入当初よりは良くなりました。年間を通じて病棟の稼働率はおおむね目標をクリアしていました。ホスピスは常勤医師が2人体制となって稼働率が安定しています。

外来患者数は（統計的な有意差はないものの）増加傾向です。予算上の目標は達成できていませんが、医師の退職、休職が相次いだことも考慮すればやむを得ない面もあります。一方で外来患者一人当たり単価は目標に足らず、こちらは伸び代があると思われます。紹介患者数も増えておらず、診察／検査依頼に速やかに応えられる態勢が必要と思われます。

平成 2 5 年度 1 日平均外来受診人数



紹介患者数



【平成 25 年度 手術件数】

手術名	件数	手術名	件数
内視鏡的大腸ポリープ切除術	25	方側内鼠径ヘルニア手術	1
痔核硬化療法（四段階注射法）	24	頸部脂肪腫切除（皮下、粘膜下血腫切除術）	1
痔核結紮切除術	12	肛門狭窄形成術（グラフト術）	1
胃 E M R	10	肛門狭窄形成術	1
外鼠径ヘルニア手術	10	慢性裂肛根治術	1
内鼠径ヘルニア手術	10	肛門周囲膿瘍切開術	1
イレウス管挿入	7	肛門周囲膿瘍切開排膿術	1
痔瘻根治術	5	骨髄炎手術（手）	1
直腸脱手術	4	術後止血術（肛門）	1
大腸 E M R	3	上行結腸切除術	1
胃全摘術	2	中心静脈カテーテル植込術（鎖骨下）	1
内視鏡的結腸出血止血術	2	中心静脈栄養埋め込み C V ポート	1
P E G 造設術	1	虫垂切除術	1
S 状結腸切除術	1	直腸ポリープ切除術	1
足趾切断術	1	デブリートメン	1
開腹下胆摘術	1	背部皮下腫瘍摘出術（背部粉瘤切除術）	1
総胆管切石術	1	皮下腫瘍摘出術（殿部）	1
回盲部切除術	1	左鼠頸部 C V ポート埋め込み術	1
顎関節脱臼非観血的整復術	1	右卵巣摘出術	1
内括約筋切開術	1	裂肛根治術	1
痔核結紮切除術	1	裂肛切除術	1

【平成 25 年度 検査件数】

	GFS	CF	USTG	マンマ		GFS	CF	USTG	マンマ
4 月	59	19	91	6	10 月	93	21	140	20
5 月	85	21	136	8	11 月	79	25	95	18
6 月	116	24	172	8	12 月	98	28	93	25
7 月	121	26	171	15	1 月	77	29	77	20
8 月	96	23	144	20	2 月	102	26	79	17
9 月	82	16	131	16	3 月	66	26	63	7
合計					合計	1074	284	1392	180

医局秘書

【スタッフ】

常勤職員 4 名。非常勤職員 1 名。内常勤 1 名（8 月より産休・育児休暇取得）休職中
6 月に非常勤職員 1 名、11 月に常勤 1 名が入職した。

【目標】

電子カルテ導入後、医師の事務作業の負担軽減を図る。

【活動報告】

電子カルテの代行入力をはじめ病名整理、書類の下書き、診察室呼込み等外来診療に対する医師の負担軽減に努めた。

【実績】

電子カルテの代行入力
レセ病名の入力・訂正
主治医意見書・医師意見書の入力
各種書類の下書き
褥瘡の集計作業
処方・注射切れの確認作業

【教育】

日本医師事務作業補助研究第 3 回全国大会参加
日本病院協会の医師事務作業補助者研修会参加

【今後の課題】

所属している職員の経験年数が少ない分、個々のレベルアップに努める。
外来診療補助だけでなく、入院診療補助にも力をいれていく。
業務の見直し、効率化に努め負担軽減に寄与できるように努める。
新規入職者に対し、少しでも早く同じレベルに達するための教育プログラムを作成する。
電子カルテ導入後の評価・問題点を抽出し、来年度に活かせる体制作りを確立する。

診療技術部

【H25 年度活動計画及び実績】

病院の基本理念、職業倫理に基づいて、医療・介護の提供を実践する。

1. 当院の地域における患者ニーズや役割（機能）を見直し、当院の強みを強化する。
リハビリテーションセンターが実現した。今後、心臓リハビリ、がんリハビリ、障害リハビリ、先天性疾患のリハビリを検討して実行する。人員を確保し、365 日リハビリ、充実加算取得を継続する。
2. 医療サービスの質の向上に努める。
 - 1) 滋賀医大との連携、ドクターネットによる画像読影を運用した。
各種医療機器とパックスとの接続を検討し、心電図、エコーと接続した。
 - 2) 当院外来の効率化・省力化
電子カルテにより、医師が検査・画像・薬剤の処方指示がし易いように運用を考えていく。患者さんを中心に考え、他部門とコミュニケーション良く連携して運用する。
 - 3) 9 月に機能評価審査受審 3GVer. 1 に向けて、他部署と連携して準備を行い更新した。
 - 4) 地域ニーズに合わせ、他職種によるチームで診療をサポートする。
NST、ICT、褥瘡、緩和ケアチームにおいて各部署と連携して医療の質向上に努めた。
3. 各科 各人が目標数字を定め、到達できるよう毎月努力する。
 - 1) 昨年より収益増を目指し、収益増に結びつくように他部署に働きかけた。
 - 2) 経費を削減する。
 - 3) 人材を育成し、各職員が人事評価制度における自己目標の達成をめざし、レベルアップを図る。
 - 4) 職員のコンピテンシー、規律遵守を促す。（報告・連絡・時間厳守・整理整頓）
4. 医療機器・医薬品の安全使用管理を徹底し、医療事故を防止する。
医薬品・医療機器の講習会、点検を行い、関係部署に発信していく。
災害時、パンデミック時等に対する危機管理体制を構築する。
5. 公益財団法人の病院として、地域との関わり協働を深める。
介護予防教室、病院・財団、地域の事業に各職種の職能を生かして関わる。
ヴォーリズ健康フェスティバルに職能を活かし積極的に関わった。

【H26 年度の課題】

診療技術部以外の部門、部署と連携を取り、各科の職能を発揮して協力して業務にあたり、患者の治療に貢献する。各科の技能、知識を更に向上させて医療の質の向上を目指す。

H26 年 4 月にある診療報酬改訂に対応する。

薬局

【スタッフ】

薬剤師 7 名 調剤補助 1 名

【目標】

病院の基本理念、職業倫理に基づいて医療の提供を実践する。

1. 医療サービスの向上に努める。
2. 病棟薬剤業務を充実させる。
3. 目標数字を達成する。
4. 人材を育成し、各職員が人事評価制度における自己目標達成をめざしレベルアップを図る。
5. H25 年 9 月に受審する機能評価審査の準備を整える。
6. 医薬品情報の伝達。

【活動報告】

1. H26 年度に病棟薬剤業務加算を取得する準備を行った。
2. 抗がん剤を、全てに閉鎖式器具を使用して薬剤師が調製した。
3. 1 部の病棟で定期の一般輸液調製を薬剤師が実施するようにした。

【実績】

成果・評価：産休・育休と薬剤師人数が少ない中で、調剤補助者の応援を得て実績をあげることができた。

H25 年	入院人数	指導人数	指導率	380(回)	325(回)	退院 90(回)	退院指導率
4 月	156	103	66.00%	98	109	29	67.40%
5 月	159	106	66.60%	108	124	32	59.20%
6 月	155	105	67.80%	115	110	27	62.80%
7 月	161	138	85.70%	175	122	27	65.80%
8 月	158	136	86.00%	177	125	35	70.00%
9 月	148	125	84.50%	154	139	32	66.60%
10 月	151	131	86.70%	172	136	30	71.40%
11 月	141	125	88.60%	191	114	22	73.30%
12 月	144	127	88.19%	178	117	24	58.53%
1 月	145	126	86.20%	116	95	32	68.00%
2 月	145	116	80.00%	137	108	20	60.60%
3 月	165	141	85.40%	188	125	37	68.50%

【教育】

医薬品情報専門薬剤師認定セミナー参加
第 16 回日本医薬品情報学会学術大会参加発表
サラヤ感染セミナー参加
日病薬 療養病床委員会講習会参加
滋賀県病院薬剤師会学術セミナー参加
第 20 回京滋 NST 研究会参加
第 35 回日本病院薬剤師会近畿学術大会 参加発表
第 29 回日本静脈経腸栄養学会学術集会参加

その他、病院薬剤師会、薬剤師会主催研修会に多数参加

【今後の課題】

- ・機能評価審査時に指摘された、手術室の薬品管理に取り組む。
- ・次年度に病棟薬剤業務加算が取得できるよう整える。
- ・抗がん剤調製時、無菌製剤加算が取得できるように安全キャビネットを導入する。

診療放射線科

【スタッフ】

診療放射線技師 5名

【目標】

1. 患者様一人一人に丁寧なサービスを提供する。
2. 機器の精度管理と環境整備を行い安全と信頼を得る。
3. スタッフの自己啓発を支援し、検査の質の向上を図る。
4. システムの円滑な運用を目指す。

【活動報告】

PACSサーバー・検像システムのリプレイス

【実績】

一般撮影	平成 25 年 4,094,840	平成 24 年 4,115,880	前年比	1%ダウン
画像管理加算	平成 25 年 7,835,530	平成 24 年 7,457,960	前年比	5%アップ
CT	平成 25 年 23,619,600	平成 24 年 21,558,600	前年比	10%アップ
MRI	平成 25 年 9,175,100	平成 24 年 9,379,800	前年比	2%ダウン
放射線科収支報告				
	平成 25 年 65,845,078	平成 24 年 62,793,054	前年比	5%アップ

【教育】

2013 国際医用画像総合展・初心者向け病院ネットワークの基礎知識
 第 153 回磁気共鳴懇話会・第 38 回 CT 画像研究会
 第 8 回全国 X 線撮影技術読影研究会・大阪胃腸会・消化器がん検診精度管理機構講習会・第 17 回読影セミナー・第 12 回肺気腫セミナー・第 7 回技術セミナー
 第 76 回京都画像研究会・第 26 回滋放技 CT 研究会・第 39 回 CT 画像研究会
 第 40 回 CT 研究会

【今後の課題】

遠隔読影システムが 4 月に変更されたが、依頼を行う際の依頼書と画像とのひも付を人の手により行う必要があり、依頼間違いに繋がる恐れが非常に高い。

臨床検査科

【スタッフ】

生理検査部門	常勤臨床検査技師	1名	科長 鯉江 賢二
	非常勤臨床検査技師	1名	
検体検査部門（ブランチラボ）	常勤臨床検査技師	1名	
	非常勤臨床検査技師	2名	

【目標】

検査病態を意識し検査業務の取り組む事をモットーとし、患者に不可欠な臨床検査を目指します。

【活動報告】

当臨床検査科は生理検査部門と検体検査部門に分かれています。生理検査部門は心電図等の循環器検査並びに肺機能測定等の生理検査を実施しています。平成24年5月より睡眠時無呼吸症候群の（SAS）の診断に役立つ携帯型SAS検査を導入致しました。又、DLco（肺拡散能力）検査ができる総合肺機能測定装置（フルガ）電子を使用提案し、採用致して、間質性肺炎とよばれる、びまん性肺疾患の早期発見、肺気腫など肺の病態診断に役立つ検査を致しております。そして、ホルター心電図（24時間心電図）検査は今までより、より軽減に検査ができる様、装着器の大きさはマッチ箱サイズで上腕に取り付けるタイプの最新式の検査装置（フルガ）電子を採用しています。検体検査部門は2005年12月1日よりブランチラボ（検査センターメディック）になりました。院内にて緊急項目の血液並びに尿検査を実施しています。又、平成24年5月から糖尿病の診断又は治療の基準となるヘモグロビンA1C検査を院内にて実施しています。

【実績】

生理検査部門

- ① 日本臨床衛生検査技師会員
- ② 滋賀県臨床検査技師会員
- ③ 日本心電学会員
- ④ 日本睡眠学会員
- ⑤ チーム医療CE研究会員
- ⑥ 日本赤十字社救急法救急指導員
- ⑦ 滋賀県安全法指導員協議会員

⑧ 公益社団法人臨床心臓病学教育研究会 元教育スタッフ

⑨ 国立大学法人滋賀医科大学精神医学講座 非常勤

学会認定

- ① 日本臨床検査医学会 認定緊急臨床検査士
- ② 日本臨床検査医学会 認定二級臨床検査士（循環生理学）
- ③ 日本生体医工学会 認定第二種 ME 技術者
- ④ 日本睡眠教育機構 睡眠健康指導士上級

検体検査部門

- ① 日本臨床衛生検査技師会会員
- ② 滋賀県臨床検査技師会会員
- ③ 滋賀県臨床検査技師会役員

学会認定

- ① 日本臨床検査医学会 認定二級臨床検査士（臨床化学）

検体検査加算件数

平成 24 年度	平均	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
検体検査 加算件数	729	716	757	724	770	741	574	759	748	714	740	733	771

平成 25 年度	平均	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
検体検査 加算件数	756	735	774	787	813	735	697	798	762	739	782	695	766

評 価

2003. 12. 15 に日本病院機能評価 V4 認定。2008. 12. 15 に日本病院機能評価 V5 認定。

2013. 12. 6 に日本病院評価一般病院 1 認定。

社会保険事務局施設基準：検体検査管理加算（Ⅰ）H15. 12. 1 受理

社会保険事務局施設基準（施設基準改正による）：検体検査管理加算（Ⅰ）H20.

5. 1 受理

検体検査部門を平成 17 年 12 月 1 日からブランチラボとなりました。

【教育】

研修・勉強会

院内勉強会

① 新しい医療機器の導入時の研修

“PSG 検査とは”“簡易 PSG 装着方法について”

メーカー(株)チェスト 機種 APNOMONOTOR mini

生理検査室にて 平成 25 年 6 月 6 日（木）実施

② 新しい医療機器の導入時の研修

“簡易血糖測定器の説明会”

機種・メーカー：グルコカード G ブラック・(株)アーレイ、メディセーフ フィット・(株)テルモ
フラッシュライト・(株)ニプロ

外来 2 診察室にて 平成 25 年 6 月 21 日（金）実施

③ 新しい医療機器の導入時の研修

“簡易血糖測定器の説明会”

機種・メーカー：グルコカード G ブラック・(株)アーレイ、メディセーフ フィット・(株)テルモ
フラッシュライト・(株)ニプロ

医局にて 平成 25 年 8 月 23 日（金）実施

④ 新しい医療機器の導入時の研修

“PSG 検査とは”“簡易 PSG 装着方法について”

メーカー(株)チェスト 機種 APNOMONOTOR mini

1 病棟 112 号室にて 平成 25 年 12 月 26 日（木）実施

⑤ 新しい医療機器の導入時の研修

“新しい簡易血糖測定器と穿刺器具の使用方法について”

メーカー(株)アーレイ 簡易血糖測定 “：グルコカード G ブラック®”

メーカー(株)アーレイ 穿刺器具 “チュラレット®”

メーカー(株)ニプロ 穿刺器具 “LS アンセット®”

1 病棟 2 病棟 3 病棟ホスピス病棟各ナースセンターにて平成 26 年 2 月 20 日（木）実施

⑥ 新しい医療機器の導入時の研修

“PSG 検査とは”“簡易 PSG 装着方法について”

メーカー(株)チェスト 機種 APNOMONOTOR mini

2 病棟 213 号室にて 平成 26 年 3 月 17 日（月）18 日（火）実施

研修会・セミナー参加

① チーム医療CE研究会主催

“心電図セミナー『誰にでも良くわかる心電図』” 出席（出張）

日時：平成 25 年 4 月 27 日（土） 大阪教育会館たかつガーデンにて

② 日本赤十字社滋賀県支部・滋賀県安全法指導員協議会主催

“滋賀県安全法指導員協議会設立 50 周年記念大会” 出席（自費研修）

日時：平成 25 年 6 月 15 日（土）滋賀県農業教育情報センターにて

③ 米国呼吸療法学会公認

「呼吸療法セミナーin 湘南 2012」 出席（出張）

日時：平成 25 年 7 月 13 日（土）、14 日（日）湘南藤沢徳州会病院にて

④ KRT チーム主催

“やりなおしの呼吸と循環とことんマスター” 出席（自費研修）

日時：平成 25 年 8 月 31 日（土）大阪教育会館たかつガーデンにて

⑤ 滋賀県臨床工学技士会主催

“11th 呼吸療法セミナー ” 出席（出張）

日時：平成 25 年 10 月 20 日（日） 草津総合病院にて

⑥ 自動呼吸機能検査研究会主催

“第 20 回琵琶湖セミナー” 出席（出張）

日時：平成 25 年 12 月 7 日（土）、8 日（日） ホテルラフォーレにて

⑦ 日総研主催

“呼吸と循環”をつなげて重症患者をアセスメント」セミナー

出席（出張）

日時：平成 26 年 1 月 26 日（日）愛日会館にて

⑧ フクダ電子京滋販売(株)主催

「動脈硬化指標 CAVI・ABI 測定の取り方と診かた」 出席（自費研修）

日時：平成 26 年 2 月 8 日（土）京都テルサにて

【今後の課題】

- ・携帯型 SAS 検査の普及
- ・肺機能検査の精度管理の充実

栄養科

【スタッフ】

管理栄養士（3名） 調理師（12名） 調理員、調理補助その他（3名）

【目標】

- 1) クリニカルサービス（栄養管理）とフードサービス（給食管理）の両面から「体と心に対し、調和のとれた食事」の提供を目指す。
- 2) NSTの充実を図るとともに、各種地域連携パスに参画し、地域に向けた総合的な栄養ケアに取り組む。
- 3) ムダを省き、増収に繋がる業務を遂行する。
- 4) スタッフの自己啓発を支援し、心身の健康管理に留意。

【活動報告】

- 1) 食欲不振の患者様に、副食の対応で「おかず超小皿」を設定し、食事負担を軽減。
- 2) ペースト食のミキサー粥に増粘剤を使用してゼリー状にし、誤嚥防止に努めた。

【実績】

収益（療養費）

月	療養費収益及び特食比率				
	特別食	比率（％）	一般食	比率（％）	合計
4	2,429,388	30.8	5,442,560	69.2	7,871,948
5	2,808,868	36.6	4,858,240	63.4	7,667,108
6	2,553,972	33.1	5,159,040	66.9	7,713,012
7	2,541,800	30.1	5,901,440	69.9	8,443,240
8	2,500,988	30.5	5,686,400	69.5	8,187,388
9	2,446,572	31.6	5,297,280	68.4	7,743,852
10	2,534,700	31.2	5,576,960	68.8	8,111,660
11	2,508,864	31.8	5,370,240	68.2	7,879,104
12	2,553,256	32.4	5,338,240	67.6	7,891,496
1	2,348,346	30.0	5,565,440	70.0	7,913,786
2	2,234,820	31.0	5,001,600	69.0	7,236,420
3	2,320,500	28.6	5,781,120	71.4	8,101,620
合計	29,782,074	31.5	64,978,560	68.5	94,760,634

収益（指導料）

診療報酬	外来 (1300)	入院 (1300)	集団 (800)	N S T (2000)	合計
	加算	加算			
4 月	5. 200	2. 600	14. 400	0	22. 200
5 月	5. 200	7. 800	10. 400	0	23. 400
6 月	10. 400	3. 900	9. 600	0	23. 900
7 月	9. 100	1. 300	12. 000	0	22. 400
8 月	6. 500	3. 900	11. 200	0	21. 600
9 月	6. 500	2. 600	13. 600	0	22. 700
10 月	5. 200	2. 600	11. 200	0	19. 000
11 月	3. 900	5. 200	8. 800	0	17. 900
12 月	6. 500	1. 300	11. 200	0	19. 000
1 月	0	0	12. 800	0	12. 800
2 月	2. 600	2. 600	12. 000	0	17. 200
3 月	5. 200	6. 500	12. 800	0	24. 500
合計	66. 300	40. 300	140. 000	0	246. 600

【教育】

（研修・研究）

- 滋賀県栄養士会主催研修会：管理栄養士
- 糖尿病学会：管理栄養士
- 日本静脈経腸栄養学会：管理栄養士
- 日本病態栄養学会：管理栄養士
- 京滋N S T研究会：管理栄養士

【今後の課題】

- 1) N S T加算の取得を進めていたが、条件が満たせず実現しなかった。
- 2) 特食率 40%を目標に取り組んだが達成できなかった。
- 3) 栄養指導件数の増加に繋がる、栄養士からの働きかけが出来なかった。

2013 年度 集団栄養指導



糖尿病教室

*時間：第 4 木曜日 午後 12 時～午後 1 時半

*場所：研修室（療養棟下）

*内容：治療食の試食と各スタッフによる勉強会

1 月 24 日（木）	医師
2 月 21 日（木）	管理栄養士
3 月 21 日（木）	理学療法士
4 月 25 日（木）	薬剤師
5 月 23 日（木）	看護師
6 月 20 日（木）	管理栄養士
7 月 25 日（木）	医師
8 月 22 日（木）	理学療法士
9 月 26 日（木）	薬剤師
10 月 24 日（木）	看護師
11 月 21 日（木）	管理栄養士
12 月 19 日（木）	医師



リハビリテーション科

【スタッフ】

理学療法士 5 名、作業療法士 1 名の計 6 名増員しました。セラピスト総数 33 名（内非常勤理学療法士 1 名、言語聴覚士 1 名含む）でサービス実施致しました。

【目標】

- ①リハビリテーションセンター構想を実現させ、心臓リハビリ、がんリハビリ、障害児・者リハビリ、先天性疾患のリハビリの検討し、実行する。
- ②外来リハビリテーションのあり方を検討する。
次期診療報酬改定による慢性期の疾患別リハビリテーション（いわゆる 13 単位リハビリテーション診療）廃止への対応。
- ③退院後の訪問リハビリテーション支援を強化する（短期集中サービスの強化）。
- ④回復期リハビリテーション病棟（2 病棟）以外の回復期のリハビリ対象患者のサービスを充実させる。
- ⑤回復期リハビリテーション病棟の専従者人員を増やし、休日扱い日のサービス提供を充実させる。

【活動報告】

- ①平成 26 年 4 月、ヴォーリズ記念病院東館 3 階にリハビリテーションセンターを開設する。心臓リハビリ、がんリハビリ、障害児・者リハビリ、先天性疾患のリハビリが実行できる施設となりました。
- ②平成 26 年診療報酬改定においては、慢性期の疾患別リハビリテーション（いわゆる 13 単位リハビリテーション診療）廃止は見送りとなったが、今後も介護保険サービスへの移行を推進していくことと致しました。
- ③訪問リハビリテーションにおいて課題とされていた当院の回復期リハビリテーション病棟退院患者に対して継続したリハビリサービスも昨年度に比べ増しております。
- ④回復期リハビリテーション病棟(2 病棟)以外の患者サービスにおいては、昨年度 13,065 単位に対して、今年度は 18,870 単位と大幅に単位数増となり提供量は充実させることが出来ました。
- ⑤回復期リハビリテーション病棟の休日扱い日のサービス提供は昨年度 7846 単位に対して今年度は 8989 単位とし、単位数も 2.91 から 3.28 単位となりより充実したサービス提供が実施されました（表 1）。
- ⑥在宅復帰率は 94.03%と高い水準を維持出来ておりました（表 2）。

【実績】

表 1—回復期リハビリテーション病棟実績 (2013. 04. 01～2014. 03. 31)

	回復期リハ病棟 (休日外)	回復期リハ病棟 (休日)	合計
①回復期リハビリテーション病棟に入院していた患者の延入院日数	11496	2734	14230
②上記患者に提供された疾患別リハビリテーションの総単位数	77051	8989	86040
イ：心大疾患リハビリテーション総単位数	0	0	0
ロ：脳血管疾患等リハビリテーション総単位数	47243	5468	52711
ハ：運動器リハビリテーション総単位数	29808	3521	33329
ニ：呼吸器リハビリテーション総単位数	0	0	0
1日当りリハビリテーション提供数 (②/①)	6.7	3.28	6.04
算出期間における休日・休日以外の日数	294	71	365

表 2—回復期リハビリテーション病棟 在宅復帰率 (2013. 04. 01～2014. 03. 31)

在宅復帰率	
①退院患者数 (名)	151 (12)
1) 在宅 (名)	142 (12)
2) 介護老人保健施設 (名)	6 (0)
3) 他の回復期リハ病棟 (名)	2 (0)
4) (3)を除く病院、有床診療所 (名)	1 (0)
(除外) 急性期 (名)	8 (1)
(除外) 死亡等 (名)	4 (1)
②在宅復帰率 (1) / ① (%)	94.03

【教育】

4月13日	西川 美里	臨床教育実習指導者会議参加	8月24～25日	清岡 哲也	認定理学療法士循環必須研修会
4/27-5/6	堤 久美	ボイ協会認定ボイ法セラピスト講習会	2013/9/28～	坂本智子	介護専門員更新介護保険情報収集
5/3-6	安居 伸吾	四肢の評価と治療の基礎	10月5-6日	森田 暁	訪問リハビリ未来サミット
6月8-9日	森田 恵	訪問リハビリ学会大会	9月21-22日	田淵 由希子	脳卒中に対する運動療法
6月8-9日	櫻井 朋世	訪問リハビリ学会大会	1月24-26日	正木 了	PNF講習会参加
6月8-9日	岸本 美地彦	訪問リハビリ学会大会	2月7-8日	川村 知世	回復期リハビリテーション病棟協会研究大会
6月8-10日	中塚 絵理	看護のキネシティックアプローチコース	2月10-11日	清水 悠貴	高次脳機能障害とニューロリハビリテーション
6月29-7月1日	中塚 絵理	同上アドバンスコース	3月2日	浮氣 麻貴子	認知症に対する治療法を学ぶ
6月22-23日	甲斐 始	ニューロリハビリセミナー参加(基礎編)	3月8日	宮本 優子	IVES1-ザ-向けセミナー
9月28-29日	甲斐 始	同上(応用編)	3月23日	小畑 さおり	実践 認知症ケア研修会2014
11月30-12月1日	甲斐 始	同上(臨床編)			

【今後の課題】

- ①地域包括ケア病床患者のリハビリテーションフローを構築する
- ②FIM（FIM 効率）を活用した予後予測を実施
- ③作業療法士数の充足
- ④定期的なリハビリテーション実績データの公開

メディカル・フィットネスセンター ヴォーリス

【スタッフ】

常勤スタッフ 社会福祉主事・トレーナー1名 介護福祉士1名

非常勤スタッフ 健康運動指導士1名 理学療法士2名での運営でした。

【目標】

1. 介護予防デイサービス （要支援認定を受けておられる方に対するサービス）
開催日 月、火、木、金曜日
上限定員の80パーセント以上の安定的な稼働率を目標とする。
2. 一般会員 （自立生活を送られている方に対するサービス）
利用者の方へ健康に対する定期的な集団指導やイベントを企画して、利用者の健康への意識を高め退会数を減少させる。
3. 利用する全ての方へニーズや症例に応じたキメ細かいサービスを行えるように
気をくばり利用者の QOL と顧客満足度の両方の向上を目指す。
4. 「里」内や他の関連事業所との連携を例年以上に強く取りデイサービス、一般会員への入会の流れへと展開する。
5. スタッフの知識と技術の向上を図るため個々の専門分野のさらなる知識や技術の習得に力を入れ、それを他のスタッフへ研修で伝える事により個々の実力の向上を目指し利用者の方へより良いサービスを提供することを目指す。
6. デイサービスの送迎スタッフの確保をして業務を円滑に進められる事を目指す。

【活動報告】

1. デイサービス 月・火・木・金 9:30 から 11:30 の運営
2. フィットネス会員 上記以外の時間（日・祝日を除く）
デイサービス、フィットネス会員共に有酸素運動機器や筋肉トレーニング機器などを使用して、基礎体力向上、身体能力向上、リハビリを目的とした運営を行いました。 フィットネス会員に対してストレッチイベントの開催を行い会員からの退会防止に努めた。

【実績】

	デイサービス利用者数	給付単位	フィットネス会員数	収入金額
4 月	19	64,849	81	329,925
5 月	22	76,016	83	308,925
6 月	23	76,155	84	306,870
7 月	23	76,009	86	307,260
8 月	24	80,294	86	306,540
9 月	27	89,093	82	336,380
10 月	26	89,093	80	306,165
11 月	26	89,093	78	288,725
12 月	26	91,239	87	344,125
1 月	26	91,239	76	341,935
2 月	24	84,586	73	288,730
3 月	22	80,079	73	280,410
合計	288	8,044,460	969	3,780,710

【教育】

- ・アスリートのための食トレ 講習会
- ・上肢のコンディショニング

【今後の課題】

- ・デイサービス利用者数の確保のための自治体やケアマネージャへの働きかけの実施。
- ・フィットネス会員の退会防止のためのイベントの実施。
- ・デイサービス、フィットネス会員以外での収益の拡大。

ME サービス室

【スタッフ】

常勤臨床工学技士 1名 室長 鯉江 賢二

【目標】

院内の医療機器の保守点検を行い、医療の質の向上と患者に対する医療サービスの向上を目指します。

【活動報告】

近年、多くの医療機器が医療の現場で使用されるようになりました。これらの機器を安全に信頼性高く操作、管理することはたいへん重要です。当 ME サービス室（臨床工学部門）は、急性期呼吸器疾患に対応できる非侵襲的人工呼吸器 V-60®と BiPAP®Vision®を導入しています。又、在宅用の人工呼吸器並びに非侵襲的人工呼吸器と睡眠時無呼吸症候群の治療に経鼻的持続陽圧呼吸装置（CPAP）の貸し出しを行っています。その他、院内の医療機器の保守点検を行っています。

【実績】

- ① 公益社団法人日本臨床工学技士会・日本臨床工学技士教育施設協議会実習指導者
- ② 公益財団法人医療機器センター在宅人工呼吸器に関する指導者
- ③ 日本赤十字社救急法救急指導員
- ④ 滋賀県安全法指導員協議会員
- ⑤ 日本心電学会員
- ⑥ 日本睡眠学会員
- ⑦ チーム医療 CE 研究会員
- ⑧ 公益社団法人日本臨床工学技士会員
- ⑨ 滋賀県臨床工学技士会員
- ⑩ 滋賀県臨床工学技士会 元理事
- ⑪ 公益社団法人臨床心臓病学教育研究会 元教育スタッフ
- ⑫ 国立大学法人滋賀医科大学精神医学講座 非常勤
学会認定
 - ① 3 学会（日本胸部外科学会、日本呼吸器学会、日本麻酔科学会）
合同呼吸療法認定士
 - ② 日本生体医工学会 認定第二種 ME 技術者

- ③ 米国集中治療医学会 F C C S プロバイダー
 ④ 米国集中治療医学会 F C C S インストラクターアシスタント
 ⑤ 日本睡眠教育機構 睡眠健康指導士上級

医療機器安全管理料件数

平成 24 年度	平均	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
医療機器 安全管理 料件数	4.5	4	2	1	3	5	7	5	6	9	5	5	2

平成 25 年度	平均	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
医療機器 安全管理 料件数	2.4	1	2	2	4	2	3	2	1	3	3	5	1

評 価

社会保険事務局施設基準：医療機器安全管理料 1 平成 20 年 4 月 1 日受理
 2008 年 12 月 15 日に日本病院機能評価 V5 認定。
 2013 年 12 月 6 日に日本病院評価一般病院 1 認定。

【教育】

院内勉強会

- ① 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修
 シリンジポンプの安全使用のための研修
 メーカー：(株)テルモ 機種 TE-361
 ホスピス病棟ナースセンターにて 平成 25 年 5 月 8 日（水）
- ② 新しい医療機器の導入時の研修
 呼吸療法ネーザルハイフローの使用方法について
 メーカー：パシフィックメディコ社 ハイフローシステム
 ・PCM-300A 加温加湿チャンバー
 ・NPPV 汎用呼吸回路ヒーターワイヤー
 ・鼻カニューレ
 1 病棟にて 平成 25 年 7 月 11 日（木）
- ③ 新しい医療機器の導入時の研修
 非侵襲的人工呼吸器の使用方法について
 機種：TrilogyO₂ 100 フィリップス・レスピノクス社
 3 病棟・1 病棟にて 平成 25 年 9 月 18 日（水）、19 日（木）

④ 新しい医療機器の導入時の研修

人工呼吸器 サーボS[®] 使用方法について

機種：サーボS[®] (株)フクダ電子京滋販売

医局にて 平成25年12月20日(金)

⑤ 従業者に対する医療機器の安全使用の為の研修

人工呼吸器カテーテルマウントと人工鼻の交換実習

メーカー：GEヘルスケア社 iVENT201

1病棟130号室にて 平成26年12月26日(木)、28日(土)

⑥ 従業者に対する医療機器の安全使用の為の研修

NPPV(非侵襲性人工呼吸器)使用方法について

機種：vivo40 (株)チェスト

1病棟 112号室にて 平成26年1月6日(月)

研修会・セミナー参加

① チーム医療CE研究会主催

“心電図セミナー『誰にでも良くわかる心電図』”

出席(出張)

日時：平成25年4月27日(土) 大阪教育会館たかつガーデンにて

② 日本臨床工学技士会主催

“第23回日本臨床工学会”

出席(自費研修)

日時：平成25年5月18日(土)、19日(日) 山形テルサ・山形国際ホテルにて

③ 日本赤十字社滋賀県支部・滋賀県安全法指導員協議会主催

“滋賀県安全法指導員協議会設立50周年記念大会”

出席(自費研修)

日時：平成25年6月15日(土) 滋賀県農業教育情報センターにて

④ 米国呼吸療法学会公認

「呼吸療法セミナーin湘南2012」

出席(出張)

日時：平成25年7月13日(土)、14日(日) 湘南藤沢徳州会病院にて

⑤ KRTチーム主催

“やりなおしの呼吸と循環とことんマスター”

出席(自費研修)

日時：平成25年8月31日(土) 大阪教育会館たかつガーデンにて

⑥ 滋賀県臨床工学技士会主催

“11th呼吸療法セミナー”

出席(出張)

日時：平成25年10月20日(日) 草津総合病院にて

⑦ 自動呼吸機能検査研究会主催

“第20回琵琶湖セミナー”

出席(出張)

日時：平成25年12月7日(土)、8日(日) ホテルラフォーレにて

⑧ 日総研主催

「“呼吸と循環”をつなげて重症患者をアセスメント」セミナー 出席(出張)

日時：平成 26 年 1 月 26 日（日）愛日会館にて

【今後の課題】

- ・今年度の 9 月 9 日から人工呼吸器、輸液ポンプ、シリンジポンプ、小型シリンジポンプ、病棟用心電計の医療機器の一括管理を始めた。運用ができること。

看護部

【H25 年度活動計画及び実績】

1) 看護、介護の役割を熟知し、全人的視点で看護・介護を展開する。

- ・看護部教育ラダー・KOMI 教育ラダーを用いてキャリアアップを支援する体制を整備した。看護部理念を念頭に、各部署で業務改善を行いケアカンファレンス、デスカンファレンスの充実が図れた。里内におけるケア充実と連携を目的とした「里ケア会議」の内容を検討し、より実践的レベルの内容とした。

2) 健全経営を遂行する為に、個々のコスト意識を高め、経営改善に取り組む。

- ・各病棟年間平均稼働率

	1 病棟/亜急性病床	2 病棟	3 病棟	ホスピス
病棟稼働率	83.3%/100%	93.8%	96.4%	75.6%

- ・病床ミーティングを週 3 回定例で開催し、入退数の把握、転入・出のコントロールを行い、月 1 回地域連携課と合同会議を定例とする仕組みを作り日々のコントロールを行った。
- ・看護要員確保の為にリクルート活動計画を立て県内外就職合同説明会 4 回参加、看護学校訪問（山陰、四国）を行った。
- ・看護行為の適切な請求に向け看護部内での学習会を 3 回医事課と共に行った。

3) 安全・安心で信頼できる質の高い看護・介護サービスを提供する。

- ・医療安全管理者、各リスクマネージャーが役割を果たし、インシデント・アクシデントへの意識が向上した。インシデント 728 件（発見の含む）、アクシデント 147 件（レベル 3b 4 件）であった。各部署でカンファレンスを定例化し迅速な対応の検討なされた。院内感染においては、委員会、チームが中心となり院内巡視を行い、課題についての対応がなされ院内感染事例の発生はなかった。退院アンケート、皆様の声、苦情の意見を看護部内で検討し対応し改善を図った。

4) 個々の人間成長と能力開発を実現するための支援を行う。

- ・人事制度に基づき前スタッフが個人目標を立て自己の能力向上に努めた。各所属長による年 2 回の面談にて支援した。
- ・院外研修 88 名の参加を支援した。臨床指導者研修 1 名参加資格を得た。

5) 看護部職員の心身の健康に留意する。

- ・日本看護協会主催による「ワークライフバランス推進事業」へ参加。インデックス調査の結果を受け、院内に委員会を立ち上げ推進計画の基活動をスタートした。
- ・安全衛生委員会と連携しメンタルヘルス支援体制を整備し支援した。

6) 病院機能評価受審に向け取り組み、医療・看護・介護の質維持、を図る。

- ・2013 年 9 月 19・20 日にて一般病院〈Ver.1.0〉受審、認定更新を得た。

【H26年度の課題】

- ・看護部理念に添った全人的ケアの充実を目指し、地域に求められる看護・介護の提供が出来るよう組織構築を行う。職員一人ひとりが専門職として自己の向上心を持ち、働き続けられる組織づくりを行う。
- ・看護管理者の能力向上を目指し、看護管理研修ファースト・セカンド・サード研修の受講を支援し実践的マネジメントを行う。経営資源であるヒト・モノ・カネ・時間・情報の管理を行い病院運営へ参画する。
- ・看護部職員一人ひとりが地域連携への関心を持ち継続した看護・介護が実践出来るよう教育体制を作る。
- ・看護要員確保活動を継続して行い、安定した病棟管理が出来るように整備していく。
- ・キャリアパスシートの評価を行いスタッフ育成支援していく。認知・感染・緩和認定看護師研修への支援を行う。

看護部職員が、人間力を高め看護のよろこびを感じながら、役割と責任を自覚し行動できるチームづくりを行う。

1 病棟

【スタッフ】

看護師 20 名（うち 看護師長 1 名、主任 1 名）
 准看護師 2 名
 看護助手 12 名

【目標】

1. 急性期から慢性期疾患の患者と向き合い全人的視点で看護展開できる。
2. 急性期病棟（亜急性期病棟も含む）として経済性を考えた病棟運営を行う。
3. 医療安全・危機管理体制を整え、安全なケアを提供する。
4. 教育、自己啓発の支援を行い個々のレベルアップを実現する。

【活動報告】

- 1ー急性期患者はもちろんのこと、慢性期でリハビリ希望者や療養棟や回復リハビリ病棟の待機患者さまの受入れを行いながら、KOMI 理論をもとに KOMI システムで看護展開を行った。カンファレンスは定着化してきているが、経過が短い一般病棟で、カンファレンスの開催時期、テーマの絞り込み、医師や他職種、他部門との有意義なカンファレンスの持ち方の検討が必要と感じている。
- 2ー毎日、外来への空床報告を行いながら、予定入院から緊急入院を受け入れていった。MSW とも連携を取り、他院からの転院の受入れも行った。
- 3ーインシデント、アクシデントは正直に上げ、毎日行うインシデントカンファレンスに加え、アクシデントが起こった際は緊急カンファレンスを行った。カンファレンス内容がスタッフ全員に周知されなかったという課題は多少残った。
- 4ー新人看護師 1 名は三交代勤務まで入れるよう育成できた。
 自主的に院外研修に参加する者もいたが、個人目標に合わせて研修参加を促した。

【実績】

平成 25 年	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月
一般病床稼働率	84.8	87.6	79.9	86.6	87.9	80.9	78.9	81.7	79.3
亜急性期病床稼働率	101	102	104	98.6	102	102	101	100	102
一般入院数	59	54	56	66	52	57	53	47	54
一般退院数	45	45	48	43	52	46	41	44	47
平均在院日数	17.9	18.9	18.7	18.5	18.4	18.5	18.1	17.6	17.7
看護必要度 (%)	16.8	15.6	9.8	9.7	14.0	16.8	14.6	10.7	14.7

平成 26 年	1 月	2 月	3 月	年間平均
一般病床稼働率	84.3	80.6	86.5	83.2%
亜急性期病床稼働率	101	100	100	101.1%
一般入院数	57	49	66	55.8 人
一般退院数	48	38	57	46.1 人
平均在院日数	18.1	17.6	18.2	18.1 日
看護必要度 (%)	14.6	10.7	12.9	13.4%

【教育】

* 院内研修に加え、スタッフレベルに合った院外研修でスキルアップを行った。

「自分が描くキャリアデザイン」 1 名 「看護実践と倫理」 1 名
「看護研修のクリティーク」 1 名 「フォロアーシップとリーダーシップ」 1 名
「災害支援ナース育成研修」 1 名 「高齢者の理解と認知症患者への対応」
「看護職のセルフケアリフレッシュ」 2 名 「看護研修の基礎知識」 1 名
「プリセプターシップ研修」 2 名 その他看護管理研修等

* 看護研究に取り組んだ 『気管カニューレ自己抜去のある患者の身体抑制について』

* 看護学生の臨地実習の受入れを年間 8 回行った。

【今後の課題】

* 交替勤務制の変更

* 病棟内での認知症ディの立ち上げ

* 亜急性期病床から地域包括ケア病床へ取り組みと運営

* WLB 推進事業への参画

2 病棟

【スタッフ】

看護師長 1 名 看護主任 1 名 ケアワーカー主任 1 名
看護師 8 名 准看護師 2 名 ケアワーカー 15 名 看護助手 1 名

【目標】

- 1, 全人的看護、介護を提供する。
- 2, 経済性を考慮した病棟運営を行う。
- 3, 医療安全、危機管理を行い安全と安心を確保する。
- 4, 個々の人間的成長と能力開発を支援しWLBを推進する。
- 5, 病院機能評価の受審を行い良質な医療、ケアの実践を行う。

【活動報告】

- 1 一病棟内の事例検討会を昨年からの月 1 回を 2 回に増やし全人的なケアの振り返りを行った。病棟会やリーダー会ケアワーカー会の運営を活発に行い業務改善を行った。
三方よしやひこっと研究会への参加を行い他病院、施設との情報交換に努めた。
看護学生には教える事を通して自らも学ぶ姿勢でスタッフ全員で学生指導に取り組んだ。
- 2 稼働率は 7 月以降から安定。細やかな入退院調整を図った。
8 月から入院判定会を行い稼働率の安定に取り組んだ。新人の採用を 8 名行ったが 5 名が退職。今後病棟独自のケアワーカーマニュアルを作成し指導を強化していく。
- 3 インシデント、アクシデントのカンファレンスはタイムリーに行い分析を深めた。ノロウイルスやインフルエンザ感染のマニュアルに沿って汚染拡大を防いだ。
- 4 各自目標シートに沿っての個人面談を進めた。院内外の研修会への参加を促し現場でのフィードバックが今後の課題とを感じる。
- 5 機能評価に向けたマニュアル、環境整備を行った。

【実績】

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
稼働率(%)	91.5	91.55	90.5	94.4	92.24	92.5
患者数(数)	38.4	38.45	38.7	40.5	38.7	38.8
在宅復帰率(%)	88	75	83	81	92	100
インシデント (転倒、転落)	27 (14)	11 (7)	9 (6)	16 (7)	16 (6)	10 (1)
アクシデント (件)	0	肋骨骨折	誤薬 表皮剥離	急変	誤薬	表皮剥離
カンファレンス (件)	62	46	54	55	61	47
自宅訪問	6	8	13	10	4	4
重症患者改善率	100	100	50	100	50	75
診療科別	54 : 43 : 3	47 : 50 : 3	50 : 47 : 3	47 : 53	52 : 48	59 : 38 : 3

	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
稼働率(%)	96	94	94	93	95.5	94.2
患者数(数)	40.3	39.5	39.8	39.2	40.1	39.8
在宅復帰率(%)	83	66	86	88	89	89
インシデント (転倒、転落)	27 (12)	24 (10)	14 (5)	17 (11)	14 (10)	23 (17)
アクシデント (件)	表皮剥離	表皮剥離 5	骨折 脱臼	0	表皮剥離 2 誤薬	前 額 部 内 出血
カンファレンス (件)	62	52	64	63	41	51
自宅訪問	12	7	9	5	5	7
重症患者改善率	66	50	50	100	100	100
診療科別	54 : 46	51 : 43 : 6	51 : 49	57 : 43	73 : 27	79 : 21

【教育】

院外研修

- ・臨床教育看護師育成プランフォーラム
- ・ナースのための心理学
- ・入院から在宅への生活を繋ぐ研修会
- ・高齢者の理解と認知症患者への対応
- ・回復期リハビリ病棟全職種研修会
- ・感染管理ベストプラクティス
- ・チーム医療を再考する
- ・看護職員に対する主任の指導的役割
- ・認知症ケアの特別研修

看護研究

「麻痺のある患者の手指清潔に対する病棟スタッフの意識改革」

実習

近江八幡看護学校 年5回

【今後の課題】

- *入院患者の満足度アンケート調査
- *新人ケアワーカーの育成
- *WLBの推進活動

3 病棟

【スタッフ】

看護師 18 名 介護福祉士 12 名 看護助手 6 名

【目標】

- 1、患者と向き合い、その人らしさを支える看護、介護を提供する。
- 2、情報共有を大切に、危機意識を高め、安全で安心できるケアを提供する。
- 3、地域の医療療養病棟の役割を果たし、経済性を考えた病棟運営を行う。
- 4、共に支え合い、思いやりあるチーム環境、自己啓発の支援を行う。
- 5、医療、看護、介護の質の向上を目指し、病院機能評価受診ができる。

【活動報告】

- ・患者さん家族からの声で、業務改善を行った。下タオルをベッドサイドに忘れてシーツが濡れている状況があったので、肩掛けバックを使うことで改善した。
- ・特浴が故障し、新しい特浴を購入してもらった。点検表を作成し、病棟でのチェックを確実にし、大切に使っている。
- ・ケアワーカーと看護助手さんの今までの割合が変わり、看護助手さんに早出業務を作り、時差勤務を極力減らし、他職種間で協力しながら、業務改善を行った。
- ・3人夜勤になり1年が経過し評価する中で、業務的な業務の内容、流れになっていたため、受け持ち意識を高められるよう意識改善をしている。
- ・ケアのよろこびというテーマで、医療療養病棟のアピールをした。ケアのよろこびノートを作成し、スタッフ間で共有し合う時間も作った。
- ・機能評価受診

【実績】

①今年度稼働率、平均患者数、医療区分 2.3 割合

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
患 者 数	58.5 人	58.0 人	58.9 人	58.4 人	59.1 人	57.2 人	57.7 人	57.9 人	56.0 人	56.4 人	58.7 人	57.2 人
稼 働 率	97.5 %	96.7 %	98.2 %	97.3 %	98.5 %	95.3 %	96.2 %	96.5 %	93.3 %	94.0 %	97.8 %	95.3 %
医 療 区分	73 %	70 %	66 %	65 %	65 %	66 %	69 %	69 %	63 %	62 %	64 %	66 %

・平均患者数としては、目標達成できた。地域連携とこまめに連携はとれていた。

医療区分 2.3 の割合は 66.8%達成できず、低下傾向にある。状態が良くなり、経口摂取できるようになったケース、褥瘡が良くなったケースもある。区分 1 の方の入院の長期化、区分 1 の方で特に注入の方の今後の受け入れ困難が問題となる。面談を定期的にして、家族と一緒に考えられる場を増やす。地域連携を通して老健センターとの連携などももっと考えていく必要がある。

・退院区分 死亡 64% 在宅 20% 施設 11% 病院 5%

②インシデント 128 件 ①転倒転落

アクシデント 83 件 ①表皮剥離 ②鼻注自己抜去 ③爪トラブル

【教育】

①病棟勉強会

5 月・・・薬について

7 月・・・褥創について

8 月・・・患者体験（水分形態の体験）

10 月・・・パーキンソンについて

②研究

「よりよいチーム作りのために～現状調査から～」をテーマに取り組んだ。

③研修

「人工呼吸器の取り扱いと看護」

「褥瘡と紛らわしい皮膚疾患の見分け方」

「症例から学ぶ傷の見分け方、治療法」

「教えることをとおして自分も学ぶ」

「看護研究研修」

「近畿ブロックリーダー研修会」

「認知症ケア特別研修」

「退院支援～入院から在宅へ「生活」をつなぐ」

「プリセプターシップ」

「介護福祉人材の育成・安心と自律を目指す介護福祉」

「夜勤・交代制ガイドラインについて」

「在宅生活へつなぐ認知症ケア」

「介護職のための病気と薬がわかる講座」

「実習指導者講習」

④実習

近江八幡市立看護学校 2 年生 1 回 3 年生 3 回

【今後の課題】

・稼働率の維持

・医療区分の目標達成

・機能評価受診し、継続した定期的なマニュアルの見直しをしていく。チームケアの充実

・医療療養病棟でのケアの充実、定期面談を通して家族とのかかわりを深めていく

・受け持ち意識を高められるような業務内容の見直し

・働きやすい環境作り

緩和ケア病棟

【スタッフ】

看護師 16 名 緩和ケア認定看護師 1 名 看護助手 2 名 ケアワーカー 4 名

【目標】

- 1) チームケアの充実を図り全人的ケアを提供する。
- 2) システムの評価・修正を速やかに行い、稼働率維持を考えたホスピス運営を行う。
- 3) 危機管理体制を徹底し、安心・安全なケアを提供する。
- 4) ストレスマネジメント能力の向上を図り、自己啓発の支援を行う。
- 5) 病院機能評価付加受審で得た課題に取り組み、ケアの維持向上を目指す。

【活動報告】

- ・ 緩和医 2 名・認定看護師 1 名にてホスピス病棟回診を（1 回/週）開始した。
- ・ ドキュメンタリー映画「いのちがいちばん輝く日ーあるホスピス病棟の 40 日ー」の上映にて啓蒙活動を継続中。
- ・ フレンドドッグ活動をしている盲導犬協会からボランティアの申し出があり、アニマルセラピーとして取り入れた。（1 回/月、第 2 金曜日に訪問）
- ・ ホスピス農園活動で初めて稲作に取り組み、無事収穫することができた。
- ・ 日本ホスピス緩和ケア協会近畿支部会：当番世話人 1 名、協力 2 名
- ・ 研修受け入れ
 - 豊郷准看護学院 12 名 2 日間
 - 滋賀医科大学 6 回生 2 名 3 週間
 - 弓削メディカル訪問看護 6 名 遺体管理とエンゼルメイクの講習会
 - 関西学院大学人間学部 4 回生 2 週間
 - 近江八幡市立看護専門学校

【実績】

- ・ 外来数：568 名（初診 194 名、再診 374 名）
- ・ 相談件数：22 件
- ・ 見学者数：21 名
- ・ 遺族会：偲ぶ会 2 回/年（延べ 23 家族、40 名参加）、ライラックの日 17 名参加
- ・ インシデント件数：130 件、アクシデント件数：14 件
- ・ 在宅看取り 7 件
- ・ ホスピス通信：2 回/年発行

	入院	退院	稼働率	コンサル	転入	在院日数	在宅率
4 月	14	11	93.5	1	3	29.72	54.54
5 月	13	15	80	3	2	31.4	6.6
6 月	13	16	69.56	5	2	30.28	28.57
7 月	21	21	79.81	3	4	23.75	19.04
8 月	11	17	86.44	1	2	24.66	17.65
9 月	14	17	50	1	0	22.06	11.76
10 月	17	15	72.8	3	2	24.5	26.6
11 月	17	18	78.13	3	1	20.68	21.05
12 月	13	16	77.56	2	3	23.85	17.64
1 月	13	12	64.13	0	1	24.22	8.3
2 月	14	16	72.75	2	0	24.5	13
3 月	13	11	76.81	0	0	25.63	36.36
平均	15.25	15.41	75.12	2	1.66	25.43	21.75

【教育】

- ・ 滋賀緩和研究会：2 回/年 延べ 6 名参加
- ・ 京滋緩和ケア研究会：2 回/年 延べ 8 名参加
- ・ 第 37 回日本死の臨床研究会年次大会：6 名参加（発表：事例 1 例、ポスター 2 例）
- ・ 日本ホスピス緩和ケア協会年次大会：2 名参加
- ・ アロマ 1 級資格取得 2 名
- ・ E L N E C - J 受講修了者：6 名
- ・ 院内研究発表：「ホスピスにおける希望を支える援助」
～最期まで治療をあきらめないケースの一考察～
- ・ 院外研修参加数：延べ 115 名（出張 23 名）

【今後の課題】

- ・ 目標稼働率達成に向けて院内外での連携を強化する。
- ・ ホスピスボランティア活動の推進と活動におけるコーディネートを強化する。
- ・ デイホスピスの企画において病院との検討が進まず、具体的な推進計画を立案する。
- ・ 台風災害にて 2 階廊下より雨漏りがあり、天井を張り替えた。災害対策の徹底が必要であり、病院全体と合わせて検討する。
- ・ 日本緩和ケア協会で目標とされている PCU スタッフ半数以上の E R N E C - J 受講修了の推進。

外来部門

【スタッフ】

看護師	12 名
准看護師	2 名
看護助手	1 名

【目標】

- ① 外来看護の質の向上に努め、患者・家族が満足できるケアを提供する。
- ② 安全・安心なケアを提供し、医療事故防止に努める。
- ③ 他部署との連携を図り、病院経営に参画する。
- ④ 個々の自己啓発・自己成長を支援し、スタッフの育成に努める。

【活動報告】

- ・抗血栓薬服用者に対する、消化器内視鏡診療ガイドラインが新しくなり、各診察室に資料を置き活用している。
- ・外来と内視鏡・中材（手術室）の統合により、外来看護の質の向上に努めている。

【実績】

- ・クラーク導入で診察がスムーズに行え、医師の業務負担の軽減ができている。
しかし、待ち時間の短縮には難しいところがある。
- ・H25 年 4 月～H26 年 2 月までの手術・術前・術後訪問件数

手術件数	術前訪問件数	術後訪問件数
74 件	72 件（97%）	31 件（43%）

【教育】

- ・糖尿病指導者の指導のもとに、フットケアの勉強会を行い、得られた知識をもとにスタッフで関わり、患者情報を共有して継続看護を行っている。
- ・院内・外研修には、勤務調整をしながら参加できている。

【今後の課題】

- ・外来中央の業務改善の検討。
- ・手術室のタイムアウトの実施とマニュアル作成。
- ・機能評価で処置室の中に、採血と注射（点滴）が一緒になっていることに指摘あり、検討。

事務部

【H25 年度活動計画及び実績】

敷地内の環境整備

平成 26 年 4 月運用開始予定で新棟（東館）着工。リハビリテーションの集約と、在宅部門の充実。及び病棟機能の変更（亜急性期から地域包括）準備。

経費節減

一般経費では新棟建築関係物品・機材購入及び水道光熱費・燃料費高騰で前年対比 15.9%増。エネルギー関係も電気・灯油の高騰で 9.4%増となり経費削減の当初目標はクリアできなかった。

健診業務について

目標予算はクリア。業務範囲の拡大・充実を図るため 2 次健診の体制づくり、企業からの受入れにも尽力した。

経営戦略会議について

前年度に引き続き開業医訪問・病院訪問を行い、事務部として情報の収集・提供を行った。

官公庁への業務について

平成 26 年度の診療報酬改正に向けて病院の方向性・方針決定のため情報収集に各研修会・説明会に積極的に参加し、年度末には院内向けの勉強会を実施した。

コンプライアンスの遵守

看護部と連携し、学校訪問・県内外で実施した就職説明会への参画。
リクルート活動の新規開拓、見直しを行った。（四国・九州方面）

職員の生活支援について

給与・規約プロジェクト委員会主導のもと給与規定の見直し、就業規則の見直しを継続的に行っている。院内保育については新棟完成を目途に 24 時間保育の実施に向けての運営方針を検討。外部委託を含め様々な観点から検証が行われた。退職金積立制度の確定拠出年金への移行についての職員向けの説明会を数回に分けて行った。

メンタルヘルス、ワークライフバランスへの取組

院内での WLB 推進委員会の立ち上げ、第 3 者機構によるメンタルヘルス対応（調査～診断、相談窓口）の立ち上げを行った。

電子カルテの運用管理、情報管理について

導入後の評価・検証を行うことが出来ていない。システム管理・セキュリティの整備を進めている。（パスワード管理変更等）

【H26 年度の課題】

平成 26 年度の診療報酬改正に向けて病院の方向性・方針決定のための情報収集に努め、関係部署と連携を強め事業計画・予算達成に尽力すること。医療・看護・介護の質を高め法令遵守のもと人員・要員確保を計画的に継続する。また、職員の心身サポートで覇気・士気を高め、内部顧客のサポート体制の整備と充実を目指していく。

医事課

【スタッフ】

常勤 8 名、 非常勤 4 名

【目標】

- ① 医事課は患者さんと一番最初に接する窓口であるという事を常に自覚し、患者サービスの向上を目指し、笑顔と思いやりのある接遇力を身につける。
- ② 新医事会計システム導入と電子カルテ導入した事により、業務の効率を良くし、適正な人員配置を行う。
- ③ 常業務の請求業務の点検に力をいれ、算定漏れ・ミスの防止に努める。
- ④ 他部門との連携をはかり、当院の動向について統計資料や医事コンより各部門に月報資料を提供する。
- ⑤ 保険制度の変更や診療報酬改正への対応。適切な進行管理、院内他部門との連携強化等により、適正かつ公正な診療報酬の請求を行う。
- ⑥ 未収金の管理、督促及び徴収に係る事務作業を行う。

【活動報告】

- ① 平成 24 年より電子カルテ導入したことにより、医事課の業務整理を行う。
- ② 平成 26 年 4 月診療報酬改正の為、新規算定可能な診療報酬の申請と算定。また、4 月中には算定要件を満たしていないが、今後算定可能な項目がある診療報酬において、算定要件を満たすよう各部門と協力し算定していく。
- ③ レセプト請求業務は、医療事務の質を評価する上で、レセプトの「査定」「返戻」の数値は重要です。
- ④ 電子カルテが導入により、病名漏れや旧保険証にての請求で査定や返戻がありました。査定・減点を減少することを目標に、日々病名チェックの強化を図りました。今年度は前年度より再審査の復活などがあり、減点は減少いたしました。また、毎月 1 回減点・査定減・返戻された内容を医局会に報告、医事課内でも報告・検討し、スキル向上を目指しました。

【実績】

減点（円）

4 月	64,413
5 月	149,933
6 月	271,198
7 月	107,943
8 月	77,175
9 月	48,155
10 月	79,142
11 月	47,543
12 月	82,169
1 月	61,632
2 月	67,997
3 月	174,844

【教育】

研修

内容 「H26 年度診療報酬改定の概要」 神戸・大津

【今後の課題】

平成 25 年度は、診療報酬の改定により変革した年でした。診療報酬の算定漏れがないよう電子カルテとのマスタの紐付け等や無駄な病院持ち出し分を減らす対策を他部門との連携をはかるなど課題があり、今後も継続していきます。

また、未収金に関しては定期的に患者さんに連絡をとり、回収率の向上を目指します。今後も継続し病院経営の収入が増えるよう、未収金対策について検討します。

総務課

【スタッフ】

常勤職員 8 名。（事務次長兼務、託児所職員含む。）非常勤職員 1 名。

内、常勤職員 2 名（6 月、7 月に 1 名ずつ産休・育児休暇取得。）休職中。

7 月より事務次長が企画室に移動となり係長が課長に昇格。7 月、8 月と連月で新規採用の 2 名が入職。しかし、9 月末を以て課長退職となる。

【目標】

健全な病院運営の徹底を図る。

医療・看護・介護の質の向上に向けて全面協力を努める。

職員の労働環境整備に努める。

職員の定着化を目指す。

職員から信頼・安心される課内整備に努める。

【活動報告】

労務管理の分野からメンタルヘルス・ワークライフバランスの支援に努め、看護部と協力し合い看護協会でのワークショップへの参画。又、就業規則についての説明会の開催等昨年度の課題から学んだことに注力した。課内整備も進み、新規採用者が即戦力として活躍してくれた。

院内保育については新棟完成を目途に 24 時間保育の実施に向けての運営方針を検討。外部委託を含め様々な観点から検証が行われた。

【実績】

- ・第三者機関によるメンタルヘルスチェック（ストレスチェック）の実施。しかし、取組初年度であったため参加職員数が少なく評価できる数値が得られなかった。
- ・WLB（ワークライフバランス）では、看護協会主催のワークショップにも積極的に参加し、院内でのアンケート調査の実施、就業規則の説明会を開催した。
- ・退職金積立制度の確定拠出年金への移行についての職員向けの説明会を業者に依頼し、数回に分けて行った。
- ・年次有給休暇取得状況報告 平成 24 年度（57.9%）→平成 25 年度（61.8%）
- ・所定外労働時間報告 平成 24 年度（6：48）→平成 25 年度（6：18）
- ・離職率 平成 24 年度（9.26%）→平成 25 年度（11.6%）

【教育】

昨年度の反省を踏まえ、職員から信頼・安心される課内整備には着手できた。人事、労務管理面及び職員支援についても前向きに各種取組を行い、専門性を磨きスキルアップに努めた。

【今後の課題】

- ・課内のメンバーが一新し、新しい風が入ってきた。引続き内部顧客へのサービス改善と運用を検討し、労務管理（勤怠システム）の導入、メンタルヘルス・ワークライフバランスへの支援の継続。
- ・新棟内に完成する保育施設の運用（24 時間保育、病児保育等）についての検討と運営。
- ・職員パスワードの更新、管理について、安全かつ確実に職員へ通知をする。

庶務課

【スタッフ】

- ① 年度末時点・職員 10 名体制（内、事務当直 3 名）。
- ② 平成 25 年 7 月、庶務課 IT 係がシステム室として独立。土井係長が転出。
- ③ 平成 25 年 7 月、経理業務を庶務課が担うことになり、北永姉転入。

【目標】 ～ I f not us , Then who ? ～

- ① ウォーバ記念病院の職員たる原点回帰と基本理念の実践。「病院が私に何をしてくれるか」から「私は病院にどう貢献できるか」への意識変革。
- ② 『4S』＝ 整理・整頓・整然・清潔をモットーとし、院内全体の設備・備品・環境整備に注力。
- ③ 病院全体の経費項目を担う重要部署であることの再認識。常に原価意識・費用対効果を念頭に置き、最終価格交渉の砦となる。“聖域”を設けず経費削減に切込み、事業計画・予算達成に寄与する。
- ④ 常に問題意識を持って業務の効率化・生産性向上を模索する習慣作り。現状維持・旧態依然《退歩》との訣別、日々自己変革《進歩》を目指す。
- ⑤ 地域再生建築プロジェクトの進捗管理。職員・利用者への周知徹底と安全確保、設備・備品関係の細部に亘る検証実施と部署移動サポート。
- ⑥ 第三者評価（病院機能評価）受審に向け、関係項目の前倒し整備・改善を図る。

【活動報告】

- ① 一般経費では、新棟建築関係物品・機材購入及び水道光熱・燃料費高騰で、前年対比 16,174 千円（15.9%）増、エネルギー関係も電気・灯油の高騰で同 5,306 千円（9.4%）増と厳しい年度となった。一方、在庫管理は昨年につき注力し、単月ベースでは前年対比の圧縮が図れた（2・3 月は消費税増税に備え、戦略的に在庫を増やした）。
- ② 新棟建築については、諸条件厳しい中、院内の安全・環境確保に配慮し、関係各位のご理解とご協力の下、無事故で工期内竣工を迎えることができた。担当責任部署として、最初から最後まで職務を遂行できたと自負している。

【実績】

①一般経費関係

(単位：円)

科目(経費)	平成24年度	平成25年度	増 減
職員被服費	2,051,378	1,923,425	▲127,953
通信運搬費	3,900,063	3,976,157	76,094
消耗品費	11,127,671	14,202,296	3,074,625
消耗器具備品費	5,002,027	12,889,193	7,887,166
水道光熱費	28,338,849	32,478,473	4,139,624
事務・図書印刷費	523,227	409,997	▲113,230
燃料費	28,736,194	30,275,047	1,538,853
修繕費	8,463,025	7,234,606	▲1,228,419
雑費	2,084,437	3,821,360	1,736,923
自動車費	916,673	921,768	5,095
器械賃借料	10,602,046	9,787,796	▲814,250
合 計	101,745,590	117,920,118	16,174,528

②エネルギー関係

	平成24年度		平成25年度	
	使用量	金額(円)	使用量	金額(円)
電気(病院本体)	1,373,927 (kwh)	21,105,538	1,387,863 (kwh)	26,223,677
上水道	20,708 (m³)	4,942,012	18,377 (m³)	4,379,077
下水道	9,560 (m³)	1,775,625	6,281 (m³)	1,125,748
灯油	273,950 (L)	22,754,078	274,000 (L)	24,179,190
LPG(ホスピス)	18,648 (m³)	5,024,116	18,262 (m³)	4,998,772
LPG(栄養科)	3,529 (m³)	1,000,552	3,535 (m³)	1,002,140
合 計		56,601,921		61,908,604

③SPD 在庫推移

(単位：千円)

	25/4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
SPD 倉庫在庫合計	3, 519	3, 439	3, 572	3, 626	3, 650	3, 459
前年対比	▲798	▲686	▲62	▲33	▲94	▲274
部署在庫合計	3, 491	3, 477	3, 284	3, 291	3, 413	3, 515
前年対比	▲712	▲788	▲868	▲335	6	161
合 計	7, 010	6, 916	6, 856	6, 917	7, 063	6, 974
前年対比	▲1, 510	▲1, 474	▲930	▲368	▲88	▲113

	25/10 月	11 月	12 月	26/1 月	2 月	3 月
SPD 倉庫在庫合計	3, 476	3, 453	3, 570	3, 454	3, 523	3, 801
前年対比	▲172	▲142	▲96	▲168	101	493
部署在庫合計	3, 505	3, 560	3, 672	3, 622	3, 519	3, 580
前年対比	▲177	▲37	▲50	73	▲6	166
合 計	6, 981	7, 012	7, 242	7, 076	7, 042	7, 382
前年対比	▲348	▲180	▲146	▲95	96	659

【教育】

省エネ・防災・設備機器・財務経理等を中心に、研修やセミナーに参加した。

【今後の課題】

- ① 平成 26 年 4 月からは消費税が 3%増税、また高騰中の水道光熱・燃料費や減価償却が新棟経費にも及び、今年度以上に厳しい経費管理が求められる。引続き聖域を設けずコストカットを図るとともに、熱源・空調・電灯設備の抜本的省エネ対策を検討する。
- ② 借入金返済原資と次期投資が着実に履行でき、また職員が従来以上に安心して働ける勤務環境を創出すべく、安定的な財務基盤を構築する。
- ③ 新棟東館がスムーズに本格運用・稼動できるよう、現場の声を吸い上げていく。東館稼動に伴い、使い勝手の良い既存建物の改修・移動と、業務に支障を来たさぬよう最善の努力をする。
- ④ 平成 26 年 4 月から、事務部組織改変に伴い、庶務課と総務課が合体し『管理課』となった。施設管理・工務・リネン・SPD 物品管理・経理・給与・労務・総務・保育所業務等を担う。フレキシブル且つ効率的な人材活用と人材育成を目指す。

診療情報管理室

【スタッフ】

診療情報管理士（1名）

【目標】

- ① 病院経営指標（機能性指標）の分析作成に努める。
- ② 診療情報をカルテ開示・訴訟に耐えられるように努める。
- ③ 統計資料（ICD-10、疾病統計、死因統計）の作成に努める。
- ④ 退院時要約（サマリー）の迅速な作成と簡潔で分かりやすい情報伝達のツールとしての質向上に努める。

【活動報告】

- ① 平均在院日数、病床回転数、病床利用率、外来入院患者数比率を毎月作成して診療情報管理委員会に報告
- ② 11件のカルテ開示対応
- ③ 地域がん登録提出

【実績】

がん登録事業参加

2013年（H25）25件

（院内およびがん診療拠点病院、支援病院以外の病院からの紹介患者のみ）

遡り調査票提出（死亡診断書から直接の死因、原因名が悪性腫瘍）

2013年実施分

2010年死亡 54件

2011年死亡 14件（地域がん登録未提出の分）

【教育】

日本診療情報管理学会に登録

「死亡診断書における意義 原死因選択ルール」研修会参加

【今後の課題】

2016年（H28年）1月にがん登録推進法が施行される事により「全国がん登録」が始まる。2014年から診療情報管理士が1名増えたので国立がんセンターでの研修（初級研修、初級終了者対象研修）を受け今まで以上のスキルを高めていく。

地域連携課

【スタッフ】

MSW 4名 7月よりMSW1名入職した。

病診連携事務 1名

【目標】

病院機能の多様化に伴い、地域連携に関しての院内・院外における活動の幅が広がっている。今年度は診療報酬改定に伴い、事業計画に基づいた施設基準の見直しに対応できるよう努める。今年度も地域に向け病院機能の周知ができるよう活動の幅を広げる。

地域連携課としての業務内容についても検討し、充実を図る。患者満足の高い退院支援が行えるようチーム医療の一員として役割を果たす。

病診連携に関しても地域連携課に組み込まれた。地域ニーズを把握し、ニーズに応じた活動を行なう。

【活動報告】

- ① 亜急性期病室、回復期リハビリ病棟、療養病棟などの包括病棟における入退院調整を行う。目標稼働率に貢献できるようベッドコントローラー・病棟と連携する。
 - ・ 包括病棟稼働目標を意識して各スタッフが病棟と協力し入退院調整を行う。
 - ・ 他施設、他病院との連携は、お互いの利益のための調整に努める。
 - ・ 紹介ケースに関して、十分な情報提供を行い、早期に受け入れできるよう努める。
- ② MSWとしての相談業務を通じて、患者・家族への支援を行う。
 - ・ 地域性を重視し在宅を目標とした退院支援を行う。
 - ・ 退院については、患者や家族が安心できるよう連携する。各病棟やサービス事業者と調整、カンファレンスを行なう。
 - ・ 患者様退院後の生活の質を上げていけるよう努力する。
- ③ 地域におけるニーズの発掘と連携機能の充実を図る。
 - ・ 病院や施設、地域開業医とも連絡を密に取り合い情報収集を行い院内に情報提供していく。
 - ・ 各地域での地域連携パス会議等への参加を行う。
- ④ 先方病院への支援を強化する。
 - ・ 地域連携課スタッフの増員を行い。地域に出て行ける人員を確保する。
 - ・ 近江八幡市立総合医療センターとの連携を強化、定期訪問と週3回の空床報告を継続する。

⑤ 診療報酬改定に伴う対応

- ・ 地域連携課として算定できる項目（退院支援加算や介護支援連携指導料など）に関しては算定漏れの無いう精査し、診療報酬増に繋がるよう努力する。
- ・ 診療報酬改定に伴う加算や地域包括ケア病棟・回復期リハビリテーション病棟・療養病棟の施設基準見直し等に対応できるよう運営協力を行う。

⑥ 病診連携機能の充実

- ・ 病診連携担当職員を配置、データー集積を行い地域の状況やニーズの把握に努める。
- ・ 開業医との連携強化を目標としスムーズな検査・診察調整を行う。
- ・ 開業医へ訪問を行う。ニーズを確認しヴォーリズ記念病院との有益な連携が図れるよう改善できる点は院内に提示する。

【実績】

26 年実績	入院患者数	全体入院割合	退院支援計画書 作成数	退院支援計画書 算定実績
4 月	14	18%	46	43
5 月	15	18%	56	25
6 月	18	22%	44	38
7 月	24	27%	41	36
8 月	21	26%	42	28
9 月	28	31%	51	36

【教育】

自己研鑽を行い連携と相談業務の質を高める。

- ・ 学会や研修会などの参加を積極的に行い最新情報の把握に努める。
- ・ 自己啓発を積極的に行い、知識・技術の向上に努める。
- ・ 資格取得を行い各自のスキルアップに努める。

【今後の課題】

地域連携課での中心業務となるMSW業務に関しては、院内での包括病棟稼働目標を意識して各スタッフが病棟と協力し入退院調整を行うことができている。

療養病棟・回復期リハビリ病棟に関しての稼働率安定に貢献した。

患者数の安定に必要とされるのは、スムーズな入退院調整であるが、入退院とも課題となるものがみえる。

まず入院に関しては、ADL・認知症状況に応じた対応のため、空床だけでの入院調整が困難な点がある。また、入浴日や週明けなどの受入れは困難なことがあり調整できる日が限られてしまう。

このような状況の中で、療養病棟・回復期リハビリ病棟に関して、ベッドコントローラーや各病棟と協力しスムーズな入院と転院が意識づいてきている。

また、退院・転棟に関しては、主治医との退院・移動時期の目安がはっきりとせず、一般棟での在院日数が長期化するケースもあった。

どの病棟で入院を継続していくことが適切なのか、医師だけでなくNs・MSW・リハビリ・コメディカルなどのチームからも相談できる体制を作る必要性も感じた。

紹介に関しては、近江八幡市立総合医療センターを中心として東近江圏域やそれ以外の地域からもあるが、回復期リハビリ病棟が湖東圏域・湖北圏域に開設することもあり紹介患者数の減少傾向もある。

地域医療の充実を図るため、近江八幡市立総合医療センターとの連携に関しては重要になる。実際に近江八幡市立総合医療センターが望んでいる調整に関しては、患者受入れのレスポンスの良さである。外部への働きかけも大切であるが、院内での統一した入院受入れ方法の拡充が急務である。

10月より地域包括ケア病床が開設する。以前の亜急性期病床と違い看護必要度の割合や、在宅復帰率、復帰先に老健が含まれないなど、以前よりも制限のある中での病棟運営が必要となる。

健診室

【スタッフ】

常勤 2 名 非常勤 2 名

【目標】

1. 売上予算実績の 5,100 万円を達成する。
2. 健診運営の安定化・平均化を図る。
3. 各 2 次検診・検査の運用体制の明確化を図る。
4. 健診が円滑に進む仕組み（流れ）の見直し。
5. 職員のモチベーションが高まる風土の確立。

【活動報告】

- ・受診者単価率のUPが出来るように、オプションの促進活動を行った。
- ・繁忙期の受診月変更交渉を行い、閑散期への受診変更を勧め、健診受診 0 日を無くした。

【実績】

売上実績 ¥54,421,159 予算の 5,100 万円より¥3,421,159 の増収
受診人数も前年度より 31 名の増加

【教育】

職場では「働きやすい職場環境とコミュニケーション」
個人では「有能さと自律型人材」
この二つの取り組みを行い実施。

【今後の課題】

- ・消費税増税分による価格を見直し、地域との価格調整を行う。
- ・企業、健保の新規開拓案を考え、実施する。
- ・受診数を落とさないような立案を考え、新しいコースの追加等を考えて行く。

企画渉外課

【スタッフ】

常勤職員 2 名

7 月、1 名財団本部への移動あり。後任として事務次長が引継ぎ兼務する。

【目標】

理念に基づく公益財団法人全体の中長期計画策定への着手とその進捗の確認。

里全体の広報、採用、人事、教育活動の体系化されたパスを作り上げる。

日々の経営数値の確認と全院目標実現に向けての行動発信。

里、病院内外での突発的事項へのスムーズな対応。

【活動報告】

- ・病院新ホームページの立上を行い、管理・展開を広報委員会と合同で行った。
- ・健康フェスティバルを企画し、開催を支援した。
- ・安定した人材確保を目指し、ホームページの充実、業者等を介し求職説明会への参画、及び情報提供に努めた。又、下期には看護部長と山陰地方、四国へのリクルート活動を展開した。
- ・退職金積立制度の確定拠出年金への移行に伴い、実務者の研修会への出席。総務課と連携を取り職員への説明会の開催を実施した。

【実績】

- ・病院新ホームページの内容の充実に伴い、閲覧者の増加・問合せが急増し、当院に対して興味を持っていただいた方が増加した。
- ・健康フェスティバルにおいては悪天候にも関わらず多数の来場者で賑わい、盛会裏に遂行することができた。
- ・業者タイアップ型の求人サイトを契約し、既卒者、学生からの資料請求や病院見学の依頼件数も増加し、山陰・四国へのリクルート活動を展開し、新規人材確保への礎となる第一歩を踏み出すことができた。

【教育】

新規入職者・途中入職者に対し、人事制度の説明を行い、趣旨を浸透させた。

【今後の課題】

- ・各種医療情報の収集および提案する基盤となる企画・渉外課の立ち位置を再確認し、業務の整備を進める。
- ・目標達成のための医業収入、医業支出の是正・調整を運営委員会、戦略会議に活かせるように各部署との連携を図り、企画・立案を行う。
- ・次世代に向けての人材確保、計画に基づいたリクルート活動を含む要員確保のための年間計画をしっかりと立案する。
- ・法令順守のもと内部監査の強化を図り健全な病院運営をサポートする。
- ・WLBの推進、メンタルヘルズ事業、人事評価制度の見直し等、内部顧客の支援に対し、企画・立案を行う。

在宅サービス部門

【H25 年度活動計画及び実績】

在宅サービス部門は、年度末の新事務所完成に向けて職員一同がモチベーションを上げ、職員数を確保しながら 3 事業所の経常利益も予算を大幅に上回る 21,202 千円（予算より 5,074 千円増）となった。地域からのニーズも医療依存度の高い方をはじめ認知症や難病、そして小児のケースが増えてきている。また、独居や老々介護の方々も後を絶たずの状況である。さらに、在宅看取りのケースも増え始め、住民の死生観の醸成と在宅医をはじめとする在宅支援チーム（他職種）の連携が充実してきていると思われる。

また、人材教育についても訪問看護師は経験年数 5 年以上が 75% となり（うち 25% が他ステーション経験あり）、実習指導者も 6 名となった。在宅看護専門看護師を中心に新人育成にも力を入れている。ホームヘルパーステーションは、介護福祉士が 86% を占め、痰の吸引等の手技取得者が 2 名となり、県内にも少ない能力・質の高い事業所となってきた。居宅介護支援事業所は、管理者の交代のための引継ぎ等で積極的に新規依頼を引き受けることが難しい状況であったが、主任ケアマネジャーの入職と担当者数の維持に努め、黒字で締めくくることができた。

介護予防拠点事業については、例年通り法人全体の協力を得ながら展開できている。

【H26 年度の課題】

新事務所移転に際して、気持ち新たに「ひと」「もの」に感謝しながらヴォーリズの基本理念に沿って在宅支援の「地域の核」となっていけるよう、よりスピーディな対応をしていきたい。また、各関係機関との連携を密にしながら、地域から「やっぱりヴォーリズグループは違う。」と高く評価していただけるよう、質の向上にも努めていきたい。そのためには、職員の定着率の維持と人材育成（教育）に対する力も惜しまぬようにしていきたい。

訪問看護ステーション ヴォーリス

【スタッフ】

管理者(正看護師)1名、在宅看護専門看護師1名(非常勤)
 正看護師11名(常勤4名、非常勤7名)、理学療法士2名(非常勤)
 事務職員2名(非常勤)

【目標】

- ①「ヴォーリス医療・保健・福祉の里」の基本理念に基づき、「里」、「病院」、「老健」、「在宅」が同じ方向に進むよう協力し、連携をとりつつ、より地域から信頼される訪問看護を目指す。
- ②年齢を問わず医療依存度の高い重症ケースや難病等の困難ケースに積極的に対応できるよう体制を整え、満足していただける質の高い訪問看護を目指す。
- ③癌末期に限定されない在宅ターミナルケアをヴォーリスの居宅介護支援事業所・訪問介護と協働し、最期までその人らしい生活を支援していく。また、亡くなられた方のご家族のグリーフケアにも努める。
- ④職員一人ひとりの能力の向上のための教育・研鑽の推進と人材育成に努める。
- ⑤法人の経営方針に沿い、収益の向上と経営の安定化を目指す。

【活動報告】

昨年度に比べ、常勤換算にして0.9名減にも関わらず訪問件数が626件増となり、収益が制度改定もあり約17,600千円と予算を3,300千円以上上回ることができた。事務所新築移転の準備を進めながら職員一人ひとりのモチベーションを高めつつ、各関係機関との連携を大切にしてきた。また、在宅看護専門看護師を中心に、実習生の受け入れや講演活動など訪問看護の質の向上と人材育成に力を発揮している。今年度末には、事務職を2名に増やし、看護職が業務に専念できるよう事務業務の効率化を整備している。

【実績】

①訪問件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
医保	324	373	344	385	364	377	338	324	311	313	296	314	4063
介保	439	453	401	423	416	412	528	445	400	395	319	375	5006

②訪問件数比率（％）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
医保	42	45	46	48	47	48	39	42	44	44	48	46	45
介保	58	55	54	52	53	52	61	58	56	56	52	54	55

訪問件数(医療・介護保健)比率は、ほとんどが4:6から5:5に近い状況で(普通は2:8くらい)、医療保険のケースが多く重症度も高かった。介護保険のケースでも途中から医療保険に変更しないといけないケースもあった。24時間コール体制で運営しているが、多い時で50件/月緊急出動している。また、癌疾患の他ターミナル期の方は月平均14名と多く、在宅看取りは年間16名であった。併設のヴォーリス記念病院からの指示書は約25%で、開業医からは50%を上回っている。ケアマネジャーからではなく開業医から直接依頼があることも少なくなかった。地域からのニーズは切れることなく、「ヴォーリスの訪問看護」を求めて下さっている。

【教育】

院内の研修はもちろんのこと、「小児訪問看護研修」「認知症研修」「難病患者の看護研修」「在宅ターミナルケア」「呼吸リハビリテーション」「訪問看護管理者研修」等、専門分野の研修会に数多く参加し、知識・技術の向上に努めることができた。また、在宅看取りに関する行政主催のシンポジウムでの講演をはじめ、地域の方への「死生観の醸成」のための活動などにも参画した。

教育面に関しては、看護学校2校への講義や実習生の受け入れをはじめ、新入職員に対する同行訪問などを通して「訪問看護の魅力」を伝えられるようにしてきた。

【今後の課題】

医療機関からの早期の退院や高齢化時代の流れで、地域からのニーズは年々増えてきている。また、小児の訪問看護も発達段階に合わせたリハビリテーション指導も含めて少しずつ増えてきている。毎年の課題でもある「人材不足」は引き続き取組まなければならないが、今現場で頑張っている職員の定着率をキープすることも大切なことだと感じている。「訪問看護の魅力」を発信することはもちろんであるが、「働きやすい職場作り」と処遇改善を視野に入れ、利用者の受け入れを断ることのないよう努めていきたい。

来年度4月の新事務所移転に向けて、職員一同「ひと」「もの」に感謝しつつ、日々の在宅支援のモチベーションを高めていく決意である。

ホームヘルパーステーション ヴォーリス

【スタッフ】

今年度は、職員2名が介護福祉士に合格をし、実務者研修修了者1名を増員し、スタッフ13名（内、介護福祉士11名）となりました。

また、喀痰吸引ができるヘルパーを2名増員し、（計4名）重症ケースにも対応でき引き続き質の高いサービス提供ができるように整えることができました。

【目標】

- ① 喀痰吸引ができるヘルパーを2名研修に出し、技術習得してもらい重症ケースにも引き続き対応し、収益に繋げていきたいと考えています。
- ② 人員を増員し新人育成にも力を入れ、より地域に密着したサービス提供ができるようにしていきます。
- ③ 働きやすい職場をめざすとともに、安全運転や職員の健康管理にも留意しながら勤務体制を整える。
- ④ 在宅見取りを推進し、住み慣れた地域で最期まで暮らせるよう、他職種と連携しながら、質の高いチームケアを行う。

【活動報告】

管理者1名（サービス提供責任者・介護従事者兼務）介護従事者13名（常勤5 非常勤7 名）事務職員2名（内1名介護従事者）の体制で活動を実施。

	常 勤	非常勤	資 格 等
管理者	1 名 (サービス提供責任者兼務)		介護福祉士
サービス提供責任者	2 名		介護福祉士
介護従事者	2 名	6 名	介護福祉士・介護基礎研修修了者 2 級ヘルパー修了者
事務職員	1 名 (介護従事者兼務)	1 名	介護福祉士

【実績】

(1) 訪問回数

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
介護 保険	995	1051	1020	1173	1195	1195	1329	1414	1210	1194	991	1838	14605
障がい 者支援	131	139	107	95	93	129	70	86	72	121	132	135	1310

介護保険の訪問回数は前年に比べ三千回以上増えており収益に繋がったと考えられる。

【教育】

ヴォーリズ記念病院の職員として院内の研修には、全員が参加することができた。

認知症研修等、スキルアップ研修にも経験年数に応じ参加、その他喀痰吸引の研修にも参加し資格習得ができた。

【今後の課題】

喀痰吸引ができるヘルパーを 2 名増やし重症ケースやターミナルの方にも対応できるよう介護専門職としての質の向上に努め介護技術のレベルを揃えるよう努力する。

居宅介護支援事業所

【スタッフ】

管理者(介護支援専門員)1名、介護支援専門員4名(内主任介護支援専門員2名)
事務員1名(非常勤) 10月より、介護支援専門員1名増員、年度末には事務員1名増員

【目標】

1. W・M ヴォーリズの創立精神を継承し、「ヴォーリズ医療・保健・福祉の里」の基本理念に基づき、利用者の在宅における生活の質の向上を目指しケアプラン作成に取り組む。
2. 里の連携を強化し、介護保険制度に基づいた適正な介護サービスを提供する。
3. 質の高いサービスを目指し、事業運営の安定を図る。

【活動報告】

新規利用者 93 名を受け入れることができた。その内訳として、在宅 46 名、ヴォーリズ関連施設 24 名、他施設 12 名、医療機関 11 名であった。

10 月より介護支援専門員を 1 名増員したが、管理者の交代や新棟への移転準備などもあり、その引継ぎ等で思うように需要に答えることができない時期もあったが、できる限り新規依頼を受け、ニーズに答えられるよう努めた。

【実績】

月別利用者数(給付)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	1 月 平均
利用者 人数	152	161	171	172	174	170	177	178	183	183	173	176	172

【教育】

院内研修はもちろんのこと、外部研修にも積極的に参加できるようにした。外部研修は主に主任ケアマネ研修や難病・看取りに関する研修に参加し、個々のスキルアップに努めた。

【今後の課題】

平成 26 年度は、新管理者での体制のもと、地域から信頼を維持できるようスタッフが協働し、安定した事業運営ができるよう努めたい。また、地域の在宅支援の「核」として、地域の各関係機関との連携に努め、介護保険制度に基づいた適正な介護サービスを提供していきたい。

介護予防拠点事業 いきいきサロンヴォーリス

アンドリュース記念館を介護予防事業の拠点として、平成 19 年から介護予防教室、ゴムバンド体操教室・歌声サロン等の活動を、概ね週に 1 回程度の開催から行ってきた。地域の高齢者が気軽に集える場所として、また活動を通して介護予防の目的も達している。今後も主として在宅サービス部門が担当し、公益財団本部・病院・老健と協働し、地域貢献事業として継続していく。平成 25 年度は、以下の事業を展開した。

○介護予防教室

	内容・テーマ	講師等	参加人数
5 月 23 日	「かかりつけ医と適切な 受診の仕方」 「もしも・・・の時、 訪問入浴を知ろう」	久我内科医院 久我正文 Dr アサヒサンクリーン訪問入浴	16 名
7 月 25 日	「老いと嚥下能力 PART I」	ヴォーリス 記念病院 言語聴覚士 甲斐始	11 名
9 月 26 日	「折り紙を楽しもう PART V」	ヴォーリス老健センター 施設長 鈴木輝康	18 名
10 月 24 日	「指先を動かそう」	ヴォーリス 記念病院 作業療法士 鎌田華子	16 名
12 月 19 日	「折り紙を楽しもう PART VI」	ヴォーリス 老健センター 施設長 鈴木 輝康	14 名
2 月 20 日	「老いと嚥下能力 PART II」	ヴォーリス 記念病院 言語聴覚士 甲斐始	20 名
合計			95 名

○歌声サロン

	参加人数
4 月	43 名
5 月	32 名
6 月	40 名
7 月	28 名
8 月	36 名
9 月	22 名
10 月	24 名
11 月	40 名
12 月	37 名
1 月	29 名
2 月	33 名
3 月	30 名
合計	394 名

○ゴムバンド教室(毎週月曜日)

	回数	参加人数
4 月	4 回	37 名
5 月	3 回	34 名
6 月	4 回	36 名
7 月	4 回	31 名
9 月	3 回	23 名
10 月	3 回	23 名
11 月	3 回	19 名
12 月	3 回	17 名
1 月	2 回	10 名
2 月	4 回	17 名
3 月	5 回	26 名
合計	38 回	273 名

礼拝堂

1 礼拝堂

- ① 始業礼拝は徐々に参加を各部署で促してくれている中、参加することへの意識が高まりつつあった。案内を毎月各部署へ配布。病院の基本理念確認の時でありその意味は少しずつ浸透してきている。
- ② 病床訪問については要請を受けて対応するように変えた。
- ③ ミュージックタイムは毎月実施できた。演奏者も定着。今後、参加者のレパトリーを少し増やしていければと願っている。

2 全体まとめ

- ① 追悼会の参加者は過去の実績から毎回平均して招待者の 10～20%の出席率。委員会主催の行事ではあるが、もっと病院行事として広く周知し病棟スタッフ、特に医師の参加をお願いしたい。
- ② 患者さんへのチャプレンとしての関わりを中心に行っているがスタッフへのケアは不十分だった。
- ③ 新人オリエンテーションを担当。フォローアップが課題。病院全体としての育成、教育プランについてシステム化する必要を感じている。入職時期が年間を通してあり、職制も多様なため、一体感を目指すことの難しさは増している。

3 総括

- ① 着任 6 年目、追悼会、クリスマスなど安定した運営となってきた。
- ② 理念に基づいた組織作りのため、協力しつつ浸透を図りたい。結果、評価の難しい「理念」ではあるが、利用者、患者の皆さんが「キリスト教の病院である」ことの期待に応えていくように内面に響く言葉を発したい。
- ③ 日曜礼拝の参加者増加。直接日々の業務との関連は少ないが日曜礼拝の出席者が増加。主にケアハウス入居者の参加が急増。病院チャプレンとしての役割を担っているが「里」にある教会、牧師としての役割と自覚。単に病院業務に止まらず「里」における役割、機能を今後検討し評価を得たい。
- ④ 基本理念に基づいた経営なのか見極める意識を高め、求められるならば病院経営へ適切な意見できるよう意識し神から託された役割を果たすことがこれからの課題の一つであると意識している。

委員会報告

2013 年度報告（平成 25 年度） 業務連絡・業務改善委員会			
人員構成			
委員長	周防正史	副委員長	澤谷 久枝
委員構成	医師（2 名）看護師（7 名）医事課（1 名）総務（1 名）在宅部（1 名） 薬局（1 名） 健診室（1 名）検査科（1 名）放射線科（1 名）地域連携課（1 名） 診療情報室（1 名） 庶務課（1 名）礼拝堂（1 名）経営企画室（2 名）		
活動内容 （成果）	業務連絡 ・各部署、委員会からの連絡事項、行事などの周知と確認。 ・行事、委員会等の調整及び具体的実施の確認。 ・節電、節水など省エネに対する取り組みと周知。 ・東館建築に関する進捗連絡。 ・拠出年金制度（マッチング制度）導入。 平成 26 年 1 月。 業務改善 ・職員ありがとうカード実施。 ・施設周囲の環境整備の実施と手順の作成。 ・駐車マナーの徹底。 ・退職者のロッカールーム取り扱い。 ・旅費支払い届けフォームの見直し。 ・外来フロア警備員の設置。 ・退院アンケート・“みなさまの声”に対する改善、回答の実行。		
課 題	・決定事項の周知と継続。 ・改善へ向けた P D C A サイクルの徹底。 ・退院アンケート内容の検討。（患者満足度調査と改善） 医療の質向上、環境、設備、職員接遇の向上に繋げる。		

2013 年度報告（平成 25 年度） 給与・規約プロジェクト委員会			
人員構成			
委員長	澤谷 久枝（事務長）	副委員長	
委員構成	事務部（2 名）・診療技術部長（1 名）・看護部長（1 名） 在宅部長（1 名） 職員会：3 名（会長・副会長 2 名） 医師（1 名）・総務（1 名）・看護師（2 名）・看護助手（1 名） リハ科（1 名） ヘルパーステーション（1 名）・企画（2 名）		
活動内容 （成果）	・給与・規約プロジェクト委員会メンバー17 名で活動した。 内容は下記に示すとおり。 ① 給与規定の見直し。 ・新就業規則・給与規程第 22 条(賞与の支給基準)に則り、年間予定額の夏期 0.4、冬期 0.6 を基本とすることとした。(常勤) - 非常勤職員に対しては、労働分配率を前年の 0.6 とし維持することとした。 ・基本給、暫定調整給の在り方。新人事制度との連動については継続検討。 ② 規約見直しの提案、整備。 就業規則 第 11 条 試用期間の延長について 第 12 条 解雇基準について 第 15 条 休職について 第 18 条 6 項 ならし勤務について 第 41 条 有給休暇について 有給更新を 4 月と 10 月の 2 回にする。 第 58 条～64 条 制裁について 規程変更により、連動している非常勤・嘱託・高齢者継続・登録制の見直しをする。 ③ 福利厚生の一環として、2 年ぶりに厚生旅行を実行。 一泊 3 班・日帰り 2 班 ④ 新しい退職金制度。 確定拠出年金(マッチング拠出)平成 26 年 1 月開始。 病院 5 回・老健 2 回の説明会を行い、労使代表の同意を得て実施に向けた。		

	50 歳以上の職員には、制度を利用するか否かの意志を確認。 ⑤ 新人事制度に関する継続的活動。 総合評価表・ステップアップシートの見直しの検討。
課 題	・ 就業規則 旅費規程・特別休暇(特に冠婚葬祭時)の見直し。 ・ 平成 26 年 1 月開始した確定拠出年金制度の評価。 ・ 人事制度の完成度を上げる。 各職種別のステップアップシートの追加、修正。未作成部署の作成。 公平性、納得性を得るための評価者、非評価者への教育。 個人目標の立て方、評価者の負担軽減を含め、仕組みの再検討。 ・ 基本給、暫定調整給の在り方の決定。

2013 年度報告（平成 25 年度） 自衛消防隊			
人員構成			
委員長	周防正史（自衛消防隊長）	副委員長	櫻井卓哉（防火管理者）
委員構成	隊長（1 名）防火管理者（1 名）副防火管理者（1 名）事務部（2 名）看護師（2 名）事務長（1 名）里統括防火管理者（1 名）		
活動内容 （成果）	・ 台風 18 号による床上浸水被害及び駐車場の土砂崩れ被害（平成 25 年 9 月 16 日）（病院・在宅部職員による復旧作業） ・ 避難・救出・消化器取扱い訓練 2 回開催（平成 25 年 9 月 10 日、平成 26 年 3 月 24 日） 八幡消防署員からの講評、指導を受ける。 ・ 初期消火競技会への参加・・・屋内消火栓操法・消火器操法部門 ・ 消防計画書の改定 ・ 自衛消防隊組織表・非常連絡網の見直しと作成 ・ 各部署火元責任者の確認と一覧の作成 ・ 近江八幡消防署立ち入り検査、指摘事項の改善		
課 題	・ 災害時の対処法に対し不備・問題点を抽出し、現在の防災マニュアルの改訂が必要 ・ 避難用具、備品関係等の事前準備 ・ 高齢者の入院が多い中、夜間・休日の応援体制の周知 ・ 防災、各班（庶務・防災・救護）の役割の徹底と教育		

2013 年度報告（平成 25 年度）		安全衛生委員会	
人員構成			
委員長	古武まゆみ	副委員長	岡田幸子
委員構成	安全衛生管理者（2 名）、産業医（1 名）、看護部長、病棟看護師長（1 名） 外来師長 総務課（1 名）、健診室長、職員会会長		
活動内容 （成果）	・ 院内巡視の実施を行い、職場衛生管理に努めた。 ・ 職員健診の実施（夜勤者、放射線に係わる職員は年 2 回実施）。 ・ 院内感染防止のため、インフルエンザワクチン接種・HB ワクチン接種を実施した。 ・ 風疹が全国的に流行っているため、職員の風疹抗体測定を実施した。 18～45 歳の妊娠可能年齢女性及び 20 代～40 代の男性職員対象。 抗体価低い（8 未満）に風疹ワクチン接種を勧め、実施した。 ・ 産業カウンセラーより「職員のためのセルフマネジメント（心のケア）講演会」を実施した。 ・ 産業カウンセラーと職場復帰プログラムを作成し、運用可能とした。 「ならし勤務」を取り入れた。 ・ 感染防止、針刺し防止のためポスターを作成し院内に掲示した。 H25 年度針刺事故発生は 0 件であった。 ・ 職員健診時の「心の健康アンケート」は、「損保ジャパン日本興和ヘルスケアサービス」のシステムで代行する事とし、H26 年度より安全衛生委員会が請け負う事とした。		
課 題	・ 来年度は、「ストレスチェック」システムの実施率を上げる。 ・ 機能評価審査では、安全衛生委員会の取り組みが「職員健診、職業感染防止対策、精神的サポートが適切に行われている」という評価であったので、これを継続していく。		

2013 年度報告（平成 25 年度） 栄養管理委員会			
人員構成			
委員長	徳岡 貴美	副委員長	久村 良美
委員構成	医師（1 名）管理栄養士（1 名）調理師（1 名）看護師（2 名） 言語聴覚士（1 名） 介護福祉士（3 名）医事課（1 名）		
活動内容 （成果）	・ 行事食について（評価・見直し） ・ 嚥下食の改善（ペースト粥） ・ 適切な経腸栄養剤の選択・使用方法について検討 ・ 新しい副食量の設定（超小皿の新設）		
課 題	・ システムトラブルの解消 ・ 嚥下食の質の向上 ・ N S T 加算の取得 ・ 栄養指導件数増加への対策検討		

2013 年度報告（平成 25 年度） 広報委員会			
人員構成			
委員長	大南 真人	副委員長	
委員構成	企画（1名）総務（1名）礼拝堂（1名）健診室（1名） 看護助手（1名） 介護福祉士（1名）在宅（1名）リハビリOT（1名）庶務（1名）		
活動内容 （成果）	・ ホームページの充実 新ホームページの完成 ・ 毎月の病院広報誌“ヴォーリズだより”の継続発刊 原稿依頼・編集・校正・発刊		
課 題	・ ホームページ管理体制の確立 情報発信への仕組み作り 担当と役割の明文化 ・ 広報誌の充実 ニーズに沿った情報の発信		

2013 年度報告（平成 25 年度） 接遇委員会			
人員構成			
委員長	村松 淳子	副委員長	
委員構成 (14 名)	医師（1 名） 看護師（2 名） 介護福祉士（1 名） 事務（2 名） 老健センター（3 名） 給食（1 名） 看護助手（1 名） 居宅（1 名） ケアハウス（1 名）		
活動内容 (成果)	・ 職員の接遇に関する意識、質の向上に向けての取り組みを行う。 1、研修会の実施 ＊ヴォーリズの里全体の研修 ・ 研修実施日、2 月 13 日・2 月 14 日・2 月 20 日・2 月 21 日 時間、17:30~19:00 の計 4 回実施し、病院職員 254 名、 老健職員 50 名の合計 304 名の参加があった。 不参加者は病院職員 24 名、老健職員 8 名のレポートが提出されている。 2、各職場での接遇の意識、質の向上 ①各部署での「スマイルリーダー」の設置、活動、報告をしてもらう。 毎月各部署から報告を受け、集計したものを各部署に配布する。 ②毎月の“接遇標語”の設置、意識付けを行う。 委員会メンバーはその確認をしていく。		
課 題	・ 接遇研修の組み立て。 テーマ・講師・時期の検討。 ・ スマイルリーダーの在り方、内容の検討。 ・ 接遇標語の実施内容の検討。 ・ 勉強会の実施、意識向上を行えるようにしていく。 ・ 里全体のメンバーなので、里としての接遇の在り方の検討を行う。		

2013 年度報告（平成 25 年度） 臨床検査適正化委員会			
人員構成			
委員長	鯉江 賢二	副委員長	
委員構成	医師（1 名）、薬剤師（1 名）、看護師（1 名）、臨床検査技師（2 名） 医事課（1 名）		
活動内容 （成果）	- 精度管理 外部精度管理：平成 25 年度日本医師会精度管理事業の結果報告。 315 満点中、312 点で高評価。 滋賀県医師会・滋賀県臨床検査技師会精度管理事業の結果は、生化学部門・輸血部門・血清部門・一般部門・血液部門すべて A 評価です。 内部精度管理：検査センターメディックから問題なしの評価。 - その他連絡事項と業務改善について 心電図と肺機能検査結果を電子カルテにて見ることができます。 現在、どちらも結果は紙媒体で報告します。		
課 題	簡易血糖測定器を新しい機種に変更できました。患者さんからの苦情はありません。後、穿刺器具について、糖尿病医師と外来看護師と委員会で新しい器具を採用しましたが、一部の患者さんから“使いにくい”“大きいのでかさばる”“使用する時針が出てしまう”等の意見ある。使い方についてはその都度、検査科や外来看護師で説明をしているが、様子をみて、より使いやすい器具を検討する。		

2013 年度報告（平成 25 年度） 医療安全管理委員会			
人員構成			
委員長	周防 正史	副委員長	小西 智子
委員構成	医師 院長（1 名）・事務長（1 名）・看護部長（1 名） 診療技術部長（1 名） ME サービス担当（1 名）・リスクマネジメント部会長・（1 名） 医療安全推進者（2 名）		
活動内容 （成果）	1. 月 1 回の委員会活動 インシデント報告分析検討、インシデントの中でも重大であると思われるものは部会長が管理委員会に報告 部会長から報告を受けたインシデントの分析検討・改善策の提案 2. 年間教育計画に沿っての研修の企画・実行 3. 医療安全ニュースレターの発行 4. 医療安全情報の院内配信 5. 一般病棟のアクシデントカンファレンスへの参加、事後対応のフィードバック 6. 看護部以外の部署でのインシデント、アクシデントレポート提出の励行。リスクマネジメント部会参加奨励 7. アクシデントレポートの分析、改善策の検討、各部署へのサポート 8. 臨時医療安全委員会の招集 9. インシデント管理システム『SafeMaster』の導入準備中 10. 委員会規定・医療安全管理指針のマニュアル見直し。 11. 医療安全に関する職員教育。研修会開催 新採用対象・全職員対象 2 回開催		
課 題	・医療安全確保に向けた院内ラウンドチェック表の活用 ・リスクマネージャーの指導力アップと継続した教育 ・危険予知トレーニング（KYT）を重ね、根本原因分析（RCA）を訓練する。 ・職員の意識向上に向けた研修、教育の実施		

2013 年度報告（平成 25 年度） リスクマネジメント委員会			
人員構成			
委員長	前田 小百合	副委員長	
委員構成	医局（1 名）薬局（1 名）栄養、給食科（1 名）看護師（5 名） 放射線科（1 名） 医事課（1 名）地域連携課（1 名）検査科（1 名） リハビリテーション科（1 名） 庶務課（1 名）		
活動内容 （成果）	・ 毎月のインシデント報告と集計 H24 年度のインシデント集計、報告会開催（3 回） ・ 重要事例の検討と対策 ・ 医療安全委員会との連携 ・ リスクマネジメント研修会の開催 ・ セーフマスター導入による説明会		
課 題	・ インシデントレポートの提出の周知。 レポートの多い部署とゼロ件の部署があり、インシデントレポートに対する温度差を解消する。 継続。 ・ リスクマネージャに対する教育。 カンファレンスの持ち方、内容、分析の仕方、職員に対する指導などレベルアップが必要。 セーフマスターの入力方法の周知。		

2013 年度報告（平成 25 年度）		教育委員会	
人員構成			
委員長	岡田 幸子	副委員長	板谷 裕美
委員構成	医局（1 名）、看護部（2 名）、リハビリ科（1 名）、事務部（2 名） 在宅部門（1 名）		
活動内容 （成果）	・職員満足度調査：4 月実施。 →調査結果全部署へ報告：5 月 ・チーム力向上の為の意見交換会全職員対象にて開催。 →11/18～11/29 10 日間 ・他部署体験。（新入職、中途採用者対象） →7/12～8/27 22 名参加 ・院外研修（off-JT）毎月発行。 3 月 2 6 日に実施 ・救命救急講習会。 →9/24 開催 20 名参加 ・院内研修の取りまとめ。 →院内共有フォルダーにて管理開始 （院内共有ディスク障害にて不十分な管理となった）		
課 題	・職員満足度調査の内容検討。職員の志気が高まることを目的とした取り組みとして行く。 ・他部署体験の内容と体験後の振り返りについて検討。 ・シニア体験を取り入れ病院職員全体の質向上を目指す。 ・院外研修（off-JT）毎月発行の継続と成果の評価。 ・院内研修の取りまとめを行い、年間計画の基院内研修が開催出来るシステムを作る。 ・救命救急講習会の参加率を上げ、職員全員が緊急時対応可能な知識・技術の向上を目指す。		

2013 年度報告（平成 25 年度） 全人的ケア推進委員会			
人員構成			
委員長	谷川 弘子	副委員長	安部 勉
委員構成	医師（2 名）看護師（5 名）管理栄養士（1 名）薬剤師（1 名） ケアワーカー（2 名） 放射線技師（1 名）チャプレン（1 名）		
活動内容 （成果）	・ 月 1 回の定例委員会。本年度のテーマ「人として寄り添うケア」 ・ 事例検討会 年 5 回実施。10 部署の検討事例を行った。いろんな視点（コメディカルが集結）で検討が出来、勉強になった。また、事務からの事例では、クレーマーといわれる患者の全人的苦痛についての検討事例も違った観点から分析していくことも学習できた。 ・ がんセミナー テーマ「生きがい、死にがい」 健康福祉事務所所長、日本ウエルネス学会理事長、緩和ケア認定看護師の 3 回のシリーズで行い、テーマに沿って人が生きるという観点で、日常生活に於いて何を大事にするかを具体的に提示された講師の講演は好評を得ていた。 グループワークも日頃、このようなテーマで話す事などないが、改めて自分にとっての生きがいを考える機会となり、日々の過ごし方の変容に繋がる等の意見を頂いた。 ・ 追悼会（5/25：8 組 12 名、10/19：8 組 21 名参加）		
課 題	・ 事例検討会 毎年のことであるが、多くの人に参加できるように各部署の委員に声掛けしてもらう。 また、各所属長にはぜひ出席して頂くように働きかけが必要。 病棟同士で支え合うような全人的ケアをもう一度見直すような研修が必要。 スピリチュアルペインでは、アセスメントシートを活用して、全病棟スタッフが学習できるような事例検討内容にするのも一つの勉強会の方法として検討していく。 ・ がんセミナー マナー研修にならないように工夫していく必要がある。		

	・ 追悼会 関わったスタッフの参加が少ないため、早めに情報提供を各病棟に行っていく必要がある。 形式的な行事ではなく、追悼会の目的や意義自体を明確にして、家族ケアに繋げる必要がある。
--	---

2013 年度報告（平成 25 年度）		褥瘡対策委員会	
人員構成			
委員長	平野 節（医師）	副委員長	
委員構成	医師（1 名）看護師（4 名）管理栄養士（1 名）薬剤師（1 名）		
活動内容 （成果）	・ 月 1 回の定例委員会。 ・ 適宜褥瘡回診を実施。 ・ 褥瘡診療計画書を集計して医事課に提供。		
課 題	・ 褥瘡はほとんどが持ち込み例であったが、院内発生も見られる。 入院患者に高齢者が多く、高リスクだからこそ褥瘡が出来てしまうの だが、予防について方法がまちまちなのが現状。記録も十分とはいえ ない。 開放湿潤療法（いわゆるラップ療法）については十分浸透したと思わ れるが、踵の除圧／減圧法をはじめ、予防のレベルアップも図りたい。 エアマットについては、ほぼ充足している。		

2013 年度報告（平成 25 年度） ボランティア委員会			
人員構成			
委員長	安部 勉	副委員長	神 千草子
委員構成	チャプレン（1 名）・看護師（4 名）・看護助手（2 名）・在宅部（1 名） 医事課（1 名）庶務課（1 名）老健センター（2 名）		
活動内容 （成果）	・第 35 期、第 36 期ボランティア募集 募集への作業確認と役割分担 オリエンテーションの実施 ・ボランティアの健康管理と活動支援 健診、インフルエンザ予防接種の案内と実施 ボランティア間、病院、老健との交流会 活動内容、活動時間などの管理 ・活動の支援と協力体制		
課 題	・委員会体制の見直し 業務分掌を明確にし、委員会活動を充実させる。 ・ボランティアの募集 ボランティア募集が低調に終わり、新規参加者が少なかった。 ・ボランティアの集い、ニュース発行などボランティア主体で活動した。		

2013 年度報告（平成 25 年度） 院内感染防止対策委員会			
人員構成			
委員長	周防 正史（医師）	副委員長	平野 節（医師）
委員構成	院内感染防止対策委員：院長、感染管理者、（医師）、看護部長、事務長 薬局長、検査技師長、事務部長 院内感染防止対策チーム：各病棟（4 名）・外来看護師、リハビリ科、 栄養科、地域連携課・医事課、庶務課 代表各 1 名		
活動内容 (成果)	・ 滋賀医大付属病院、東近江総合医療センターと院内感染防止カンファレンスに 4 回参加し、当院の状況報告と意見交換を行った。 ・ ICT チームの院内ラウンドを開始し委員会で報告し、改善を求めた。 ・ 滋賀県感染症情報センター週報を毎週院内に配信し、情報を提供した。 ・ 委員会では「感染レポート」報告により耐性菌発生状況の報告。 ・ 院内抗生物質使用量の報告。 ・ 病棟別アルコール手指消毒薬の消費数の報告。 ・ 院内感染防止研修会の開催「結核について」、「HIV について正しい知識を学ぼう」を実施した。 ・ 自動噴霧式のアルコール手指消毒剤を必要部署に配置し消費量を委員会で報告すると共に適正な配置箇所を検討した。 ・ 職員の風疹抗体の測定、及び抗体価 8 未満の職員には風疹・麻疹風疹ワクチン接種の推奨を行った。 ・ 「病院感染防止対策マニュアル」の改訂を分担して実施した。 ・ 滋賀県感染制御ネットワークに参画し、滋賀県下の耐性菌発生状況を共有した。 ・ 当院で ESBLs の発生があればメディックより報告がくるようにした。 ・ JANIS へ参画のため、抗生物質感受性セットを変更した。 ・ 手術室手洗い装置の水滅菌検査規程を定めた。 ・ HIV 協力病院であり、抗 HIV 薬予防内服マニュアルを改訂し、他医療機関に抗 HIV 薬を譲渡する手順を周知した。		
課 題	・ 流行性角結膜炎、結核感染が発生したが、2 次感染の発生は避けられた。 ・ 機能評価審査で指摘された研修会、講演会の参加率を 100%とする事、アンチバイオグラム作成、ICD・ICN の配置が課題である。		

2013 年度報告（平成 25 年度） 診療情報管理委員会			
人員構成			
委員長	周防 正史（医師）	副委員長	加賀爪 優子
委員構成	医局（2 名） 事務部（1 名） 看護部（5 名） 診療情報管理士（1 名） 技術部、薬局（1 名） 医事課（1 名）		
活動内容 （成果）	・ 退院時要約（サマリー）の 1 週間以内完成の向上 → 80%は 1 週間以内までには完成されている。 退院後は 3～4 日には主治医に通知を行った。 ・ 院内カルテ監査（年 2 回実施） → 電子カルテになって初めての監査であった。 必要要件はクリアできていたので今までの監査の成果がよみとれた。		
課 題	・ 院内カルテ監査の振り返り → 新しいチェックシートでの監査であったのでなかなか医師への報告 ができなかった。		

2013 年度報告（平成 25 年度）		病院機能評価委員会	
人員構成			
委員長	櫻井 卓哉	副委員長	岡田 幸子
委員構成	院長、事務長 医師（1 名）看護部（6 名）診療技術部（2 名） 事務部（4 名）		
活動内容 （成果）	・ 日本医療機能評価機構認定病院受審（継続更新）新バージョンでの更新。 （更新認定）		
課 題	・ 受審当日、各サーベイヤーからの指摘事項と講評についての摺合せ。 及び指摘事項に対する改善計画。 ・ 付加機能（緩和ケア、回復期リハ等）についての受審準備にはいる。 ・ 全部署の全職員が改善・更新に参画する。 ・ 推進していくリーダーの養成と委員会メンバーのマネジメント能力を高 めていく。		

2013 年度報告（平成 25 年度） 個人情報保護対策委員会			
人員構成			
委員長	澤谷 久枝	副委員長	櫻井 卓哉
委員構成	医師（1 名）・看護部（1 名）・事務部（1 名）医事課（1 名） 在宅部（1 名） 地域連携課（1 名）総務（1 名）・薬局（1 名）・放射線科（1 名） 情報管理室（1 名）		
活動内容 （成果）	・各部署の P C 等のセキュリティ強化対策を I T 情報管理委員会と合同で実施。主に U S B の使用に関する周知徹底を図った。 ・個人情報保護に関する研修会 「個人情報保護法とプライバシー」 講師 藪本恭明氏 弁護士&医師 平成 26 年 1 月 23 日・28 日・2 月 6 日実施 ・委託業者の誓約書の見直しと管理 ・新規入職者への教育と誓約書の管理 ・電子カルテにおける各部署のマニュアル改定 ・9 月に第 3 者による監査を実施		
課 題	・個人情報保護観点からの S N S に関する教育と対策 ・I T 情報管理委員会と個人情報保護対策委員会との連携の構築継続 ・個人情報保護に関する継続した教育と周知 ・ガイドライン改正に基づき、個人情報保護規定に関する情報の集約とマニュアルの見直し		

2013 年度報告（平成 25 年度） クリニカルパス委員会			
人員構成			
委員長	木村 吉宏	副委員長	
委員構成	医師（1 名）・看護師（6 名）・薬剤師（1 名）・栄養士（1 名）・理学療法士（1 名） MSW（1 名） 医事課（1 名）		
活動内容 （成果）	・平成 25 年 7 月 ジオンパス運用開始。 ・平成 25 年 7 月 運用規定見直し、第 4 条 1 項の 1 ヶ月に 1 回開催を 3 ヶ月に 1 回に変更。 ・平成 25 年 12 月 ジオンパスの内容不備を改善した。 ・平成 25 年 12 月 ヘルニアパス・有れポリパス電子カルテ移行。Dr に確認後運用予定。 ・現在、使用しているパスを電子カルテに反映させられるよう作成中。		
課 題	・ヘルニア・有れポリ・胃ロウパスを運用できるように作成していく。 ・現在、運用中のパスの問題点等の振り返り。		

2013 年度報告（平成 25 年度） ワークライフバランス委員会			
人員構成			
委員長	岡田 幸子（看護師）	副委員長	櫻井 卓哉
委員構成	医師（1 名）看護師（9 名）事務職（2 名）薬剤師（1 名）		
活動内容 （成果）	・ 日本看護協会推進事業 WLB 推進事業への参加。 ・ 6 月説明会参加—滋賀県看護協会にて開催。 ・ 6/1～3 週間インターネットでのインデックス調査実施(看護師対象)。 ・ 9/12・13 ワークショップへ参加。 →インデックス調査の分析今後の取り組み計画の立案(4 ヶ月・1、3 年)。 1 年目のアクションプランを立案。 ①WLB 推進委員会の立ち上げと院内周知。 ②就業規則、法令に関する研修（全職員対象）。 ③公休、有給休暇に関する実態調査実施。集計分析、改善案の検討。 ・ 委員会毎月 1 回定例化した。 ・ 10 月・12 月アドバイス事業へ参加—委員 3 名参加。 ・ 1 月フォローアップワークショップへ参加、4 ヶ月の取り組み発表。 ・ 毎月 1 回滋賀県看護協会へ取り組み状況報告。		
課 題	・ 看護師対象インデックス調査の継続（日本看護協会主催）。 ・ WLB の理解を深めてもらう取り組みとして、院内掲示（WLB 新聞発行）、研修会の開催。 ・ 病院職員全員の職責遂行と権利の適切な行使を目的とし、実態調査を基に働きやすい職場づくりを目指していく。		



公益財団法人近江兄弟社 ヴォーリズ記念病院 年報

平成 2 5 年度

発行 平成 27 年 6 月
発行者 公益財団法人近江兄弟社 ヴォーリズ記念病院
院長 周防 正史

〒523-8523 滋賀県近江八幡市北之庄町 492
TEL (0748) 32-5211(代)
FAX (0748) 32-2152
URL <http://www.vories.or.jp>